

リアルBLシリーズ

# 腐

## 歴史を

## 集めて

## お納め

ください

【編著】RBL研究会

SAN

WAN

M

O

O

K



世界の歴史を腐観する!!

♂×♂、エロスと残酷の

恋愛実話!!

【カバーイラスト】

ハナ

【本文イラスト】

夏目かつら

青井さび

波野ココロ

水田ゆき

加賀城ヒロキ

はぜはら西

鯨

アキハルノヒタ





リアルB.L.シリーズ

# 腐肉

歴史を

# 集め

# お納め

ください

【編著】R-B.L.研究会

S  
A  
N

A

M

O

O

K



# はじめに

ボーイズラブ（以下…BL）は、今やすっかり市民権を得て、女子だけでなく、男子までもがその世界に魅了されています。そこは、単なるゲイやホモセクシャルの枠を超えた少年愛のアイデア渦巻く妄想と創造の平行ワールド。めくるめく人間愛に満ちあふれています。

そんなBL世界の前史ともいうべき、積み上げられてきた少年愛の歴史があります。それは、人類がたどってきた愛の歴史といっても過言ではありません。ヨーロッパでは、神話の世界から少年愛が花開き、古代ローマでは皇帝たちが愛欲の泉に身を投げていました。逆に中世から近代に至るまでキリスト教やムスリムからはタブー視され、忌避される罪ともなり



## ＜参考文献＞

『なぜ闘う男は少年が好きなのか』（黒沢はゆま ベストセラーズ）／『ホモセクシャルの世界史』（海野弘 文藝春秋）／『日本男色物語』（武光誠監修 カンゼン）／『古代エジプトの性』（リーセ・マニケ 法制大学出版社）／『アメリカ性犯罪百科』（カヅキ・オオツカ データハウス）／『江戸文化から見る 男娼と男色の歴史』（安藤優一郎監修 カンゼン）

ました。BLは宗教にとっての最大の敵ともなったのです。

また、ここ日本では寺院の奥深くで稚児と呼ばれる少年たちを愛でる文化が発達し、それは貴族や武士に受け継がれ、江戸時代には「男色」として、一般大衆に広く受け入れられるようになりました。

BLが辿ってきたのは受容と拒絶の歴史でもあります。そんなBLの歴史のなかには、喜びも、怒りも、哀しみも、楽しみも、ありとあらゆる感情が詰まっています。いかに時代が変わっても、人間の思いと欲望は決して変わることなく、今に息づいているのです。

そんなBLの深淵なる歴史をのぞけば、なぜ私たちがBLに魅了されてしまうのか、その答えにたどり着くヒントとなるはず。本書には、神話から現代に至るまでの世界中のBLエピソードを収録しました。BL世界をさらに深く楽しむための知的探求のアイテムとして、是非ご活用ください。

さあ、皆さんでBL世界をタイムトリップしてみましょう！

# もくじ

## 第1章 古代編

奔放すぎる神々の男色 008

セトとホルスの射精合戦／ゼウス一族の性豪伝説／偏愛だらけのギリシア神話／日本神話のBL

ローマ皇帝は少年がお好き？ 016

カエサル「受け」疑惑事件／受け継がれる男色の遺伝子／ローマ最大のBL悲劇

ソクラテスの哲学的ゲイセクシャル 022

ソクラテスが愛した若者／亀裂が生じ始める二人の関係／初めてのベッドタイム／死の直前に知らしめた愛の深さ

史上最強の同性愛軍団・神聖隊 028

愛の力が軍隊を強くする？／後世に語り継がれる活躍

イスラーム世界の少年愛 032

聖典でも厳罰はなし！／ムハンマドも容認派！／異教徒と交わった詩人

禁断の愛を育んだ中国の王族と宦官 036

去勢された後宮の奉仕者／宦官には2種類あった

古代文学に見る日本の男色 040

光源氏も少年を愛した？

コラム①世界各地の習俗的同性愛 042



## 第二章 中世編

中世ヨーロッパの同性愛に対する態度

044

揺れ動く同性愛

少年たちを愛して殺害したジル・ド・レ

046

王家をしのぐイケメン貴族／ジャンヌとの出会い／黒魔術と自堕落な生活／残酷すぎる愛撫／祈りと業火に生涯を閉じる

ゲイセクシャルのルネサンス 052

高まる同性愛への渴望／ダ・ヴィンチの秘めた欲望／ガチムチ好きの有名芸術家

ドラキュラ公が抱えた美しき実弟への愛憎

058

ヴラドに刻まれた憎悪の記憶

聖歌隊を支えたカストラートの悲しき性

062

去勢少年はサオありタマなし

仏教寺院で広まった日本の男色文化

064

昔から僧侶の男色はあった！／やっぱり男色はタブー／稚児灌頂は単なる名目？／稚児灌頂の式次第／空海は男色の開祖か否か

平安の男色家藤原頼長のスゴい遍歴

071

頼長の赤裸々日記／頼長と浮名を流した男たち

戦国武将たちが秘めた恋心

076

男色は足利將軍家の伝統？／信長の意中の相手とは？／伊達政宗のラブレター／男色に翻弄された会津の盟主

コラム② 女人禁制国アトス

082

## 第二章 近現代編

ゲイが生み出した秘密結社 084

大英帝国の裏ボス／セシル・ローズIIゲイ説／世界を支配したBL結社

恋する文学者の悲劇的な運命 088

オスカー・ワイルドの友愛／ゲイに染まる運命的な出会い／奇妙な四角関係／ゲイの正当性を主張／ヴェルレーヌとランボー

ゲイが憧れた夢の島・カプリ 096

ゲイの聖地・カプリ島／美少年たちとの甘い生活／性に目覚めたドイツ人

ゲイ文化に支えられたバレエ・リュス 100

伝説的なバレエ団／反骨のカウンターカルチャー／ディアギレフの人間性

弾圧に屈しないナチス時代のゲイたち 104

ナチによるゲイ弾圧／支配されぬ人々

江戸時代の日本人は男色が大好き 106

江戸時代はパイが基本!／広く浸透した陰間茶屋／気になる待合時間／陰間の挿入トレーニング／江戸版エログッズの数々

歌舞伎は男娼文化の原型!? 112

若衆歌舞伎の誕生／禁止されても消えない男娼／重要だった前髪の有無／美意識の高かった陰間

コラム③トウ・スピリット 116

番外編 猟奇事件編 117

ウィリアム・G・ボニン／ジェフリー・ダーマー／ラリー・アイラー／ロバート・バーデラ





## 第一章

神話の同性近親相姦から、文字通りの同性愛軍団まで驚きの古代 BL

# 神話・古代編

神話・古代編…… FILE ①

# 奔放すぎる 神々の男色

男性の同性愛の歴史を辿っていくと、神話世界からその記述があることがわかります。古代エジプトやギリシア神話、さらには日本書紀に至るまで、世界各地で、BLやそれに準ずるような逸話が、残されています。いったいどんな神話が残されているのか、その中からいくつかを紹介しましょう。

## セトとホルスの射精合戦

エジプト神話のなかで最も有名な逸話のひとつに、セトとホルスの王位をめぐる争い

があります。セトとホルスは80年以上も争い続けた永遠のライバルでしたが、その二人が、なんとセックスをしたという記述があるのです。法政大学出版局が刊行している『古代エジプトの性』（リーセ・マニケ著）によると、次のような内容です。

——セトはホルスに言った。「来なさい。私のところで幸せな時を過そう!」。ホルスは答えて言った。「はい、喜んで、喜んで」。夕方になると、ベッドが二人のために広げられ、二人は横になった。夜のあいだ、セトは陰茎を堅くし、

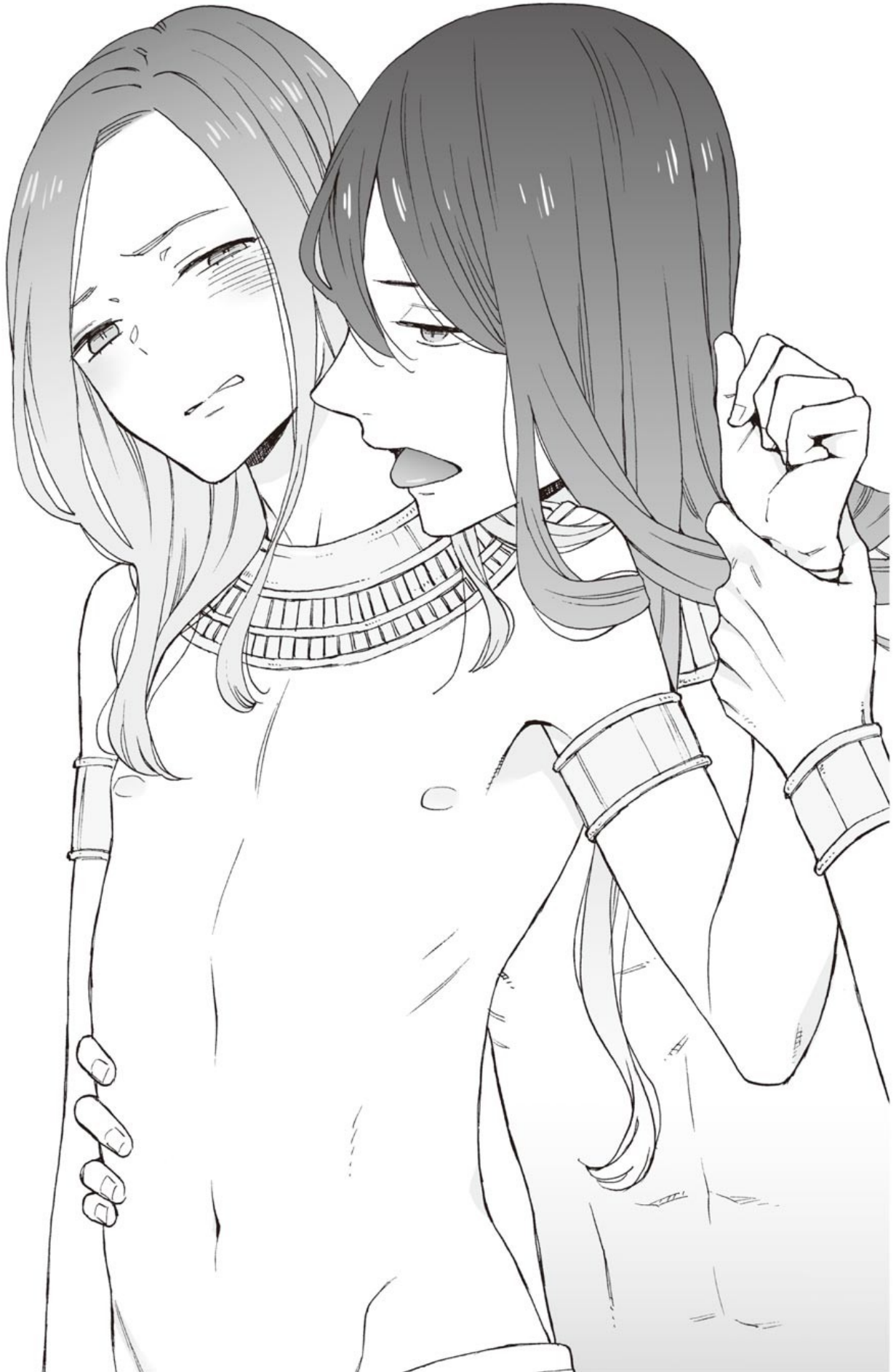
ホルスの腰のあいだに入らせた。ホルスは両手を腰のあいだに置き、セトの精子を捕えた。それからホルスは母イシスのところへ行って語った。「おおイシスよ、わが母よ、こへ来て下さい! セトが私に何をしたか、見て下さい!」

要するに、ホルスはセトの精子を母に見せたというのです。今考えれば、何とも形容しがたい状況ではあります。さらに、我が子を犯された母イシスの復讐もなかなかのものでした。セトはレタスしか食べないという偏食家でしたが、イシスはホルスのペ



第一章

神話・古代編



ニスをしごいて搾り取った精子を、セトが食べるレタスに塗りたくったのです。それを食べたセトが妊娠してしまうという、まさかの両性具有ネタで結末を迎えます。その後、二人は裁判にかけられますが、そこでも精子トークばかり。セトが性欲を象徴する神となったのは、ホルスを犯してしまったからなのかもしれません。

ちなみに、セトはホルスの母イシスの兄（または弟）で、二人は叔父甥の関係。近親相姦でもあるという、やたらと濃い設定になっています。

## ゼウス一族の性豪伝説

ギリシア神話に登場する神々は、かなり性に奔放です。全知全能の神でもあるゼウスにはヘラやテミスという妻がいましたが、気に入った女性がいると、ことごとく連れ去っては愛人にするという稀代の性豪でした。貞淑なんて概念のないゼウスに、性別なんて関係ありません。彼は男にも手を出してしまうバイセクシャルだったのです。

そんなゼウスがお気に入りとして、そばに置いたのがガ

ニユメデスという美少年でした。ガニユメデスはゼウスのお酌係でもあり、愛人としても愛されたのです。ゼウスが気に入ったのは、もちろんルックス。ガニユメデスは想像を絶するほどの美少年だったと伝えられています。ガニユメデスを取られた両親は泣いて暮らしましたが、ゼウスは「大丈夫。彼は美しいまま死ぬこともなく、空の星になり、そして輝き続けることになる」と、両親に告げて決して返そうとはしませんでした。なかなかの外道っぷりですが、古代ギリシア世界では



同性愛や少年愛が許されていたので、ギリシア神話では、次々とBしエピソードが登場します。

そんなゼウスの血を引いたヘラクレスも、トンデモない性豪でした。ヘラクレスは9つの頭を持つ毒蛇・ヒュドラや地獄の番犬ケルベロスなどと戦ったギリシア神話きつての英雄でしたが、夜のほうは豪傑そのもので、一晚に50人の女性を抱いたこともありま

す。もちろん、彼もゼウスと同様に男性が大好き。何人も美少年を恋人にしていたとされています。

代表的なエピソードのひとつが、金の羊の毛皮を求めて航海していた船に乗っていた少年・ヒュラスとの恋愛です。ヒュラスは、ヘラクレスが滅ぼしたドリュオペス人の王の息子で、たいへんな美貌の持ち主。あまりに美しかったので、ヒュラスは水の妖精にさらわれてしまい、ヘラクレスは彼を必死に探しましたが見つからず、悲しみに暮れたそうです。

肉食関係があつたかどうかは定かではありませんが、ヘラクレスと長い船旅生活を送っていましたし、ヘラク

### 偏愛だらけのギリシア神話

ナルシストの語源としても知られるナルキッソスという人物がいました。彼も相当な美少年でしたが、自分以外の他人にまったく興味が無いという、かなり偏った精神構造をしていました。そのため、人間の女性や精霊ニンフに言い寄られることもありましたが、それに応じることはありませんでした。

もともと生まれたときに「この子は自分自身を見なければ長生きできるだろう」と予言されており、彼の母親は鏡や顔が映るものは一切置かないように気をつけていました。しかし、ナルキッソスは泉で水面に映った自分の顔を見てしまうことになります。

そのキツカケを作ったのがB.L.。アメイニアスという青年に想いを打ち明けられたナルキッソス（性的関係があったのかは諸説あり）は、アメイニアスを手ひどくフツてしまいます。これに憤慨したアメイニアスは、復讐の女神ネ

メシスに「この恨みを晴らして下さい。ナルキッソスを叶わぬ恋に落として苦しめて下さい」と嘆願しながら、ナルキッソスの家の前で自殺をしてしまいました。この願いは聞き入れられ、ネメシスは、ナルキッソスが泉の水を飲むうとしたときに、ナルキッソスに彼自身の顔を見させることで、自分自身に恋をさせてしまったのです。これにより、ナルキッソスはずっと泉の水面に映るお気に入りの美少年（自分）だけを眺め続ける男になってしまったのです。

そのほか、戦いの神アキレ

スも、友人のパトロクロスに恋焦がれていたといっています。二人が恋愛関係にあったかどうかは議論の分かれるところではありますが、少なくともアキレスが彼を深く愛していたのは事実。というのも、パトロクロスが、王子ヘクトルに殺害されてしまったとき、アキレスは激怒してヘクトルを殺害。その死体を街中に引きずりまわしたそうです。

また、太陽神であるアポロは、史上初？の同性婚さえ果たしており、古代ギリシア神話は、まさにB.L.の宝庫。妄想が無限に膨らみます。





## 日本神話のBL

日本神話のなかにも、BLを匂わせるエピソードがあります。誰もが一度は聞いたことがあるだろう英雄ヤマトタケル（日本武尊）のお話です。

『日本書紀』ではマトモな人物として描かれているヤマトタケルですが、『古事記』では、兄を殺害したり、友人をだまし討ちしたりと、けっこう破天荒な人物となっています。

そんなヤマトタケルですが、『古事記』の中の熊襲（くまそ）の首長、兄建（えたけ

る）・弟建（おとたける）兄弟を討伐した時のエピソードで、熊襲の宴に入り込むために、なんと女装をしたと伝えられています。しかも、熊襲の兄弟は女装していたヤマトタケルにまったく気づかず、すっかり骨抜きにされてしまいました。そうして、ヤマトタケルもかなりの美青年だったことは間違いなさそうです。

このとき、ヤマトタケルがどんな色仕掛けをしたのか気になるかもしれません？ しかも、男性だと気づかれないなんて、ヤマトタケルもかなりの美青年だったことは間違いなさそうです。

このように、世界中の神話の中にBL的恋愛・性愛が語り継がれています。このことから、古代の世界ではBLがポピュラーな性愛の姿だったことがうかがえますね。



第一章

神話・古代編



神話・古代編…… FILE②

# ローマ皇帝は少年が好き？

## カエサルの「受け」疑惑事件

古代ローマ帝国の皇帝たちは、攻め・受けが入り乱れる花のB.L世界。なかでも「賽は投げられた」や「ブルータス、お前もか」などの名言で知られるカエサルは、生涯を通して、男色にふけりました。

カエサルは、古代ローマで最大の野心家と言われ、天才的な戦術家でもありました。ガリア戦争を指揮し、エジプトを平定するなど、数々の勝利を手に入れました。

そんなカエサルですが、実は大きなスキャンダルがあり

ました。古代ローマをめぐる政争に巻き込まれた際、亡命先のビティニアの王ニコメデスに抱かれていたというのです。ニコメデスは、戦場では猛々しい勇敢な戦士でしたが、普段は髪をカールさせ、化粧を欠かさない美男子だったと言われています。

カエサルの行為は、スキャンダルとして、たちまちローマ中に広まりました。というのも、「受けは奴隷がすべき役割」と言われるほど、古代ローマ人にとって「受け」になることは恥とされていたからです。ローマの男たるもの「抱

かれる」ことは許されなかったのです。

しかし、性に奔放なカエサルにとって、そんな風聞はどこ吹く風で、まったく気にすることはありませんでした。スキャンダル発覚後も、「攻め」になったり、「受け」にまわったりと男女入り乱れた日々を送っていました。弁舌巧みで、豪快、クレメンティア（寛容）をキャッチフレーズにしていたカエサルらしい性癖と言えるでしょう。

そんなカエサルの自由奔放な行動は、ローマ市民たちから深く愛されました。その官



illustration by 鯨

第一章

神話・古代編



能的な魅力を「すべての女にとって理想の男、すべての男にとって理想の女」と称えられたのです。

### 受け継がれる男色の遺伝子

ローマ帝国が共和政から帝政に移行すると、カエサルの後釜となった皇帝は、みなカエサルを名乗りましたが、それと同時に男色も受け継がれていたようです。

カエサルの養子で、ローマ帝国初代皇帝となったアウグストゥスは、絶世の美男子で、カエサルに抱かれていたとい

う噂もありました。そのときに身をもってB.L.の快感を知った彼も、美少年をこよなく愛し、男色の歴史に名を刻んでいます。

このように、その後のローマ皇帝は次々と男色に身を染めていきます。たとえば、史上最悪の暴君と呼ばれている第五代皇帝のネロは、2回も同性婚を果たしました。しかも、夫と妻、両方の立場というから驚きです。一度目の同性婚は、自らギリシア人奴隷のピュタゴラスの妻となって結婚式を挙げました。この結婚は、皇帝の身分でありなが

ら「花嫁」になったことや、ピュタゴラスが奴隷だったこともあり、ローマ中で大ひんしゆくを買ったそうです。ちなみに結婚式はすべて正式な手続きを経て行われ、初夜の床入りまでしました。そこまでして初夜を楽しんだのですから、ピュタゴラスの美男子ぶりは、それほどのものだったでしょう。

2回目は夫としての同性婚でした。そのキッカケは、自分で蹴り殺してしまった妻のポップエアの死を嘆き悲しんだネロが、彼女にソックリだった美少年のスポルス在花



嫁として迎え入れるというものでした。このとき、スポルスは去勢されてしまいました

があつたのかもしれませんが、あるいは、夜のテクニクがスゴかったのかも!?

が、その理由は、あくまで花嫁として迎え入れたから。自分

### ローマ最大のBL悲劇

分で蹴り殺した妻の代わりを少年に負わせ、挙句の果てに去勢までしてしまうなんて、さすがは暴君と呼ばれただけのことはありません。

ローマ帝国史上、もっとも有名なBLカップルはハドリアヌスとアンティノウスでしょう。ハドリアヌスは、ロー

していないという点で一貫している」という指摘さえ受けるほど、偏屈な価値観だったそうです。そんなハドリアヌスが運命の恋に落ちたのは、帝国領の防衛線を強化するために諸国を巡回していたときのこと。小アジアのクラウディアポリスで当時13歳の美少年と出会いました。

ただ、スポルスはネロのこゝとを深く愛したそうで、ネロが国中を敵に回しても、最後の時を迎えるまで甲斐甲斐しく支えたとも伝えられています。暴虐の限りを尽くしたネロですが、意外といいところ

マの属領だったヒスパニアで生まれ、政治家としても将軍としても才覚に恵まれた皇帝でした。ただ、享楽主義者でもあります。その性格は一般人には計り知れないものだったそうです。歴史家からは「一貫

それがアンティノウスです。当時、ハドリアヌスは48歳。いわゆる年の差カップルの誕生でした。ハドリアヌスは巡回中は常にアンティノウスを自分のそばに置かせたというほど溺愛していました。

饗宴の際には、アンティノウスの長い髪を手拭き代わりに使ったりもしました。今考えればひどいことのように映ります

ですが、ハドリアヌスにとつては愛情表現のひとつだったのでしょう。ちなみに、この巡回中に、ハドリアヌスは、

有名な男色家たちの歴史的な場所を歩き回ったりもしています。根っからの男色気質だったハドリアヌスは、アンティノウスといっしょにデート気分を味わいたかったのかもしれません。そんな蜜月は、アンティノウスが20歳を迎えても続きました。アンティノウ

スもハドリアヌスを深く愛していたので、ラブラブっぷりを家臣に見せつけていたことは想像に難くありません。

永遠に続くと思われた年の差Bカッププルですが、エジプトのナイル川を訪れたとき、二人を悲劇が襲います。

その日は船上で饗宴が開かれており、いつものように二人は人目もはばからずに愛し合っていました。ところが、盛大な酒宴にアンティノウスも酒に酔っていたのでしょ

うは、そのまま帰らぬ人となってしまったのです。ハドリアヌスがそのことに気づいたのは翌日になってからで、

徹底した川さらいが行われましたが、結局アンティノウスを見つけることはできませんでした。

ただ、このアンティノウスの死には諸説あり、ハドリアヌスによる誅殺や去勢手術の失敗説もささやかれています。しかし、ハドリアヌスは、アンティノウスの像を国中に建てました。ハドリアヌスの愛は、今もアンティノウスの彫像として残されています。



第一章

神話・古代編



神話・古代編…… FILE ③

# ソクラテスの 哲学的ゲイセクシャル

## ソクラテスが愛した若者

古代ギリシアで繁栄したアテナイの哲学者として有名なソクラテス。文系の思索家と思われがちですが、実はペロポネソス戦争を戦い抜いた歴戦の勇士でした。身体もガチガチの筋肉質だったそうで、レスリングの達人でもあったそうです。

いわばガチムチだったソクラテスですが、彼も男色をたしなみました。ソクラテスはサロンを通じて、さまざまな若者と出会う機会も少なくありませんでした。サロンと

いっても、机を囲んで議論をするようなものではなく、軍人同士で肉体をぶつかり合わせながら、哲学について話し合っていたようです。そんな環境ですから、門下生たちと関係が……というのも、充分考えられることです。

そんなソクラテスが、もつとも愛したとされているのはアルキビアデスです。アルキ

ビアデスは、当時のアテナイで絶世の美男子として知られていました。ルックスのよさを自認していて、頭には花冠をつけて、髪にリボンを結うという完全に女子っぽい出で

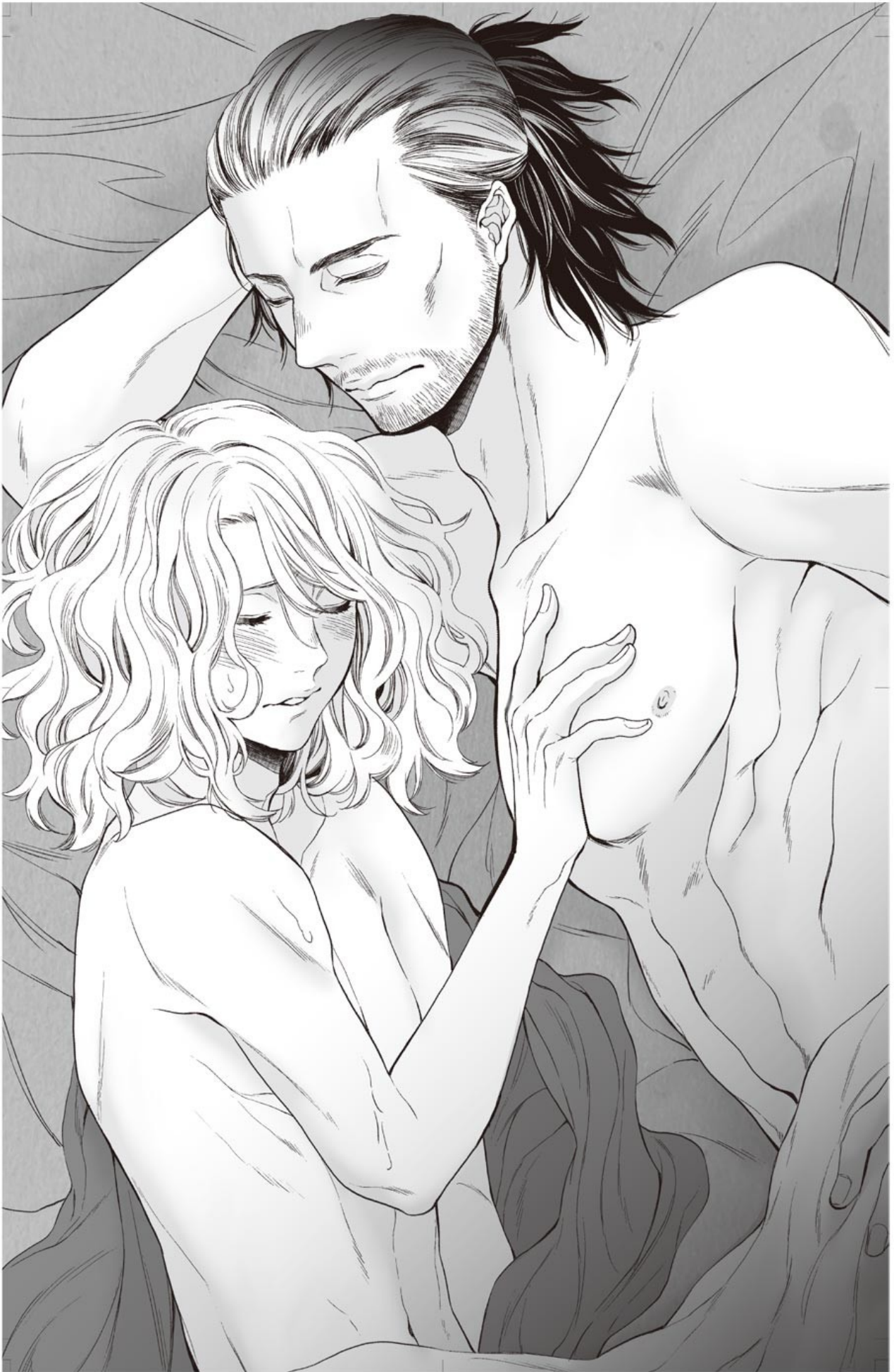
立ちをしていたそうです。さらに、将軍としても政治家としても超一流で、当時の三大国であったアテナイ、スパルタ、ペルシャをまたにかけて、その手腕を発揮しました。残念ながら政治においては大きな成果はなく、そのため歴史的にはあまり重要視されていません。

アルキビアデスが政治の世界で成り上がっていたのは、その美貌が深く関係しています。当時のアテナイでは、同性愛はごく一般的な風習でした。というよりも、当時のアテナイでは男尊女卑が常識



第一章

神話・古代編



で、恋愛は男同士でするものと決まっていたのです。ちなみに、男性同士で交際すると、大人は「愛者」、少年は「愛人」と称されたそうです。同性ナンプなんて日常茶飯事。腐を愛する者としては、まさに桃源郷でした。

そんなわけで、アルキビアデスは、町じゅうの男たちをメロメロにしていました。アル

キビアデスが誘えば、落ちない男はいなかったとさえ言われています。

そこで、アルキビアデスはその美貌を使って、権力者たちと何度も夜をともにしてい

ました。少年期のアルキビアデスには、大人が我先にと争って交際を申し込んだとい

います。アテナイを代表するような男たちを手玉にとる、魔性の美少年だったのです。そこで、ソクラテスは哲学的な質問をして、アルキビア

そんな彼の自尊心が、どんなに高くなっていたのかは想像にかたくありません。アルキビアデスは全能感に包まれていたことでしょう。

た。二人は当時アテナイの社交場だったアゴラという場で出会いました。そこで、ソクラテスは哲学的な質問をして、アルキビア

### 亀裂が生じ始める二人の関係

そんな高飛車なアルキビアデスが恋したのが、不細工で知られているソクラテスでし

た。二人は当時アテナイの社交場だったアゴラという場で出会いました。そこで、ソクラテスは哲学的な質問をして、アルキビア



「ほかの美少年に目を向けると、アルキビアデスに嫉妬される」なんていうノロケ話もしていたそうです。

ただ、二人の仲は、ちょっとしたすれ違いから、少しずつ崩れ去っていきます。当時、アルキビアデスは政治家を目指しており、よく民衆の前で演説をしていました。しかし、

そうすると決まって表れるのがソクラテスで、「お前は何もわかっていないのに何を話しているんだ」と、よく叱られたそうです。そこでアルキビアデスに、女子のような矛盾した感情が芽生えます。政治

家を目指すためには、ソクラテスの存在が邪魔だけど、もし離ればなれになってしまったら寂しい……。野望と愛とが交錯する葛藤を抱えてしまったのです。

そこで、アルキビアデスはソクラテスをベッドに誘って、自分の虜にしようと計画したのです。

### 初めてのベッドタイム

アルキビアデスはあれこれいろいろな手口を使って、ソクラテスを口説き落とそうとしますが、そのどれもが失敗。

ひと気のないところでプロレスごっこに持ち込もうとしたこともあったそうです。

最終的には自宅に呼んで一緒に酒を飲むというシンプルな方法で、ようやく二人きりになることに成功すると、アルキビアデスは「私にふさわしい人はあなたしかいない」と、ソクラテスに近づきました。それに対して、ソクラテスは哲学的な話をして、アルキビアデスの誘惑をのりくさりとかわしていきます。業を煮やしたアルキビアデスは、ついに実力行使に乗り出し、ソクラテスを押し倒そう

としました。ですが、ソクラテスはまったく動じずに最後まで受け流し、結局エッチに持ち込むことはできませんでした。その後、二人は同じ戦場に出て助け合うなどして、公私ともに交流を深めていきますが、ある宴会でアルキビアデスが「自分の誘惑をソクラテスに袖にされた」と発言して以降、ソクラテスはアルキビアデスのもとから離れてしまいました。

皮肉なことに、アルキビアデスの将軍、政治家としての人生がはじまるのは、これ以降のことです。

### 死の直前に知らしめた愛の深さ

もともと実力はあったはずのアルキビアデスですが、政治手法に一貫性を欠き、スパルタとの戦争では一進一退を繰り返すなど、アテナイでの出世はうまくいきませんでした。しかも、絶世のルックスは武器であるのと同時に敵をつくってしまうところもありました。政敵の企てによって、死刑を宣告されてしまうと、祖国を裏切って、スパルタに亡命します。

ところがここでもスパルタ

王妃を妊娠させて国王の怒りを買う、今度はスパルタの宿敵であったペルシアへと逃げ延びます。美貌のアルキビアデスはどの国に行っても人気を博しましたが、結局はスパルタの刺客によって暗殺されてしまいました。

アルキビアデスの暗殺直後、ソクラテスは戦争敗北の責任を押し付けられ、死刑となりました。その裁判の際、ソクラテスはアルキビアデスのことを最後まで擁護したそうです。肉体関係はなくても、二人の心は死ぬまでつながっていたのでしょう。



第一章

神話・古代編



神話・古代編…… FILE ④

# 史上最強の 同性愛軍団・神聖隊

愛の力が軍隊を強くする？

古代ギリシアのテーバイという都市には、特別に強化された最強部隊がありました。その名も「神聖隊（ヒエロス・ロコス）」。この舞台は150組300人からなる軍隊で、常に二人一組で戦闘にあたっていたそうです。なぜ二人一組かというと、愛するパートナーを守るために、実力以上の力を発揮することを期待されたのです。ただ、パートナーといっても兵士ですから、二人は男同士。つまり、同性愛男子のカップルだけで編成され

た軍隊だったのです。筋骨隆々の男子同士がお互いを守るために、命を賭ける。筋肉系B1好きとしてはたまらない設定ではないでしょうか。

カップルとなる二人は、古代ギリシア語において「愛する者」を意味するエラステス

と、「愛される者」を意味するエロメノスで構成されていました。詳しくは伝えられていませんが、「攻め」と「受け」のカップルと考えられます。

さて、神聖隊は、時の将軍であるゴルギダスによって結成されました。テーバイでは、ギリシア神話の英雄・ヘラク

レス崇拜が盛んでした。ヘラクレスといえば、先に紹介したように同性愛を好んだ奔放な神でもあります。ゴルギダス将軍は、ヘラクレスにならって、少年愛を育む男たちに目をつけました。

戦場において、互いに自分が愛する者、そして自分を愛してくれる者の前で、それぞれの愛に値する優れた姿を見せたいという思いから、通常の兵士たちよりもよりいっそう勇猛に激しく戦うこととなります。また、もしも戦闘において、不運にも自らの片割れとなる戦士が敵の手にか



第一章

神話・古代編



かつて命を落としたとしても、残された方の戦士は自らの半身を失ったことへの激しい怒りによって鬼神のように戦い抜いていくことになると考えられたのです。

ゴルギダス將軍は、国費で彼らを養い、平時から厳しい訓練を積むことで精鋭歩兵部隊を作り上げました。こうして戦闘に特化した同性カップル隊は完成しました。

### 後世に語り継がれる活躍

神聖隊がその名を轟かせたのは、紀元前371年のレウ

クトラの戦いでした。当時ギリシア最強と言われたスパルタとの戦いで大活躍し、テーバイがギリシアの覇権を握ることに貢献しました。

このレウクトラの戦いにおいて、テーバイ軍は同盟国から兵を集めても、6900人ほどで、11000人のスパ

ルタ軍に圧倒的な遅れを取っていました。数の論理でいえば、敗色濃厚だったのです。

そこで、テーバイの知将・エパメイノンダスは、横一列に陣を構える隊列のうち、一番左の隊だけに兵力を集中させる戦法を駆使し、この劣勢

をひっくり返そうとしました。スパルタ軍のうち、精鋭が集中しているのが一番右の部隊であり、向かい合った時に、こちらの左翼がちょうどぶつかる位置にあったからです。敵の右翼さえ潰してしまえば、総崩れが期待できると踏んだのでしょうか。

横一列をすべて12列で編成したスパルタ軍に対し、テーバイ軍の左翼は50列。まともにぶつかれば、最強のスパルタ兵たちもひとたまりもありません。しかし、そのぶん、テーバイ軍は左翼以外の部隊が手薄になるため、これらを



少し遅らせるかたちで進軍させることにしました。これによって陣形が斜めに展開されるため、この戦法は「斜線陣」と呼ばれています。神聖隊が活躍したのは、この斜線陣に對抗して、スパルタ軍が陣形を変えようとした場面でのこと。スパルタ軍は、テーバイ軍の左翼に集められた重厚な隊列を崩すべく、正面衝突ではなく、周囲から取り囲む陣形を展開しようとしていました。そのとき、神聖隊がこれを阻止したのです。この神聖隊の活躍によって、テーバイ軍は勝利に導かれました。

また、マケドニア軍と戦った際には、神聖隊は壊滅的なダメージを負ってしまいました。敵将であるマケドニア王・フィリッポス二世は、神聖隊の亡骸を前に涙を落としたといいます。というのも、神聖隊は、その愛ゆえに戦場を離脱する者がなく、最後まで戦い抜いたからでした。

ちなみに、このフィリッポス二世の息子は、かの有名なアレクサンドロス大王。ただ、アレクサンドロスの方は、神聖隊に対して「アイツらは槍で突くより、アレで突き合ってるほうがお似合いだ」などと侮蔑したといえます。

この戦いの後、神聖隊が再結成されることはありませんでした。なぜなら300人中254人が命を落としてしまったから。後に、近代ギリシャの精鋭部隊に「神聖中隊」という名前が付けられたのは、この神聖隊が由来となりました。彼らは、後世にその名が受け継がれていくほどの勇姿を見せたのです。

神聖隊は、「愛の力はどうな難事をも乗り越えられる」という言葉がまやかしいではないことを証明してくれたのかもしれません。

神話・古代編…… FILE ⑤

# イスラム世界の少年愛

聖典でも厳罰はなし！

現在、イスラム社会では同性愛は厳しく罰せられています。2001年にはエジプトで同性愛の取り締まりが強化され、2005年にはイランで同性愛が原因と見られる少年二人の処刑が行われました。さらに、2015年にはテロ組織「S・L」によって同性愛者が惨殺されるという事件も発生。イスラムでは「同性愛は『法度』というイメージが定着しています。

しかし、こうしたイメージが強まったのは、実はイスラ

ム原理主義が台頭してきてからのこと。

19世紀ごろまでのキリスト教世界では同性愛が厳しく罰せられていましたが、イスラム社会では同性愛に対してかなり寛容でした。

現代のイスラム社会で同性愛が厳しく罰せられる理由は、戒律によるものだと考えられています。確かに、イスラム教の聖典「コーラン」には、アブラハムの甥のロトが住んでいたソドムの町の住民が男色に耽っていたため、神の怒りにふれ、天から降ってきた業火によって焼き殺され

るという旧約聖書の物語がそのまま引用されています。ただし、この逸話を別にするとして、コーランで同性愛に言及しているのは一箇所だけで、「二人の男が互いに不道德な行為を行なった場合には、その両方を罰する」としか記されていません。

コーランには、さまざまな罪について、それぞれ具体的な刑罰が記載されています。たとえば姦通罪の場合は、鞭打ち百回を規定されていますが、同性愛については、その具体的な罰が記されていません。つまり、もともとは同性



第一章

神話・古代編



愛に対しては寛容な姿勢を貫いており、その風習は近代にいたるまで続きました。

ちなみに、コーランによれば「永遠の若さを保つ少年が客人の間を巡り、高坏や輝く水差し、汲みたての飲み物の入った盃を捧げる」という一文もあり、少年が性愛の対象になることがほめかされてもいます。

### ムハンマドも容認派!?

イスラム社会において、もっとも重要な預言者ムハンマドも、実は男色に対して寛

容だったのではないかという指摘もあります。そもそもムハンマドはクライシュ族に属しており、この部族は男色の「受け」になることを好んでいたという風聞もあります。ムハンマド自身は男色家ではなかったとしても、そのような行為について知っていたと考えれば、あまり厳しく罰するようなことはなかったのではないかと考えられます。

また、ムハンマドは愛弟子に対して、魅力を感じていたことを匂わせる話も残っています。愛弟子の名前はムアーズ。拔群の知性と美貌を兼

ね備えた美少年だったそうですね。そんな彼の魅力に惑わされないように、自分自身を戒めていたのか「髭のない少年に用心せよ。少女よりも混乱をそなたらにもたらす」という言葉も残しています。

ムハンマドが、少年や若者と性的な関係をもつことは禁じても、彼らに対する精神的な愛情に関して容認していたと解釈され、イスラム文学には少年や若者に対する「プラトニックな愛」をうたった詩のジャンルが生まれます。

このような詩の多くは、スーフィーと呼ばれたイスラ



ム神秘主義者の詩人たちによって書かれました。スーフィーの詩人たちは、自分たちはあくまでも愛する少年の中に神を見ていると主張し、少年への愛は神への愛、すなわち、神への信仰心の表れだと主張していました。

### 異教徒と交わった詩人

ムハンマドによって創始されたイスラム教は、またたく間に中東、地中海を席卷していきました。爆発的な拡大を担ったのはイスラムの教えを守る兵士たちですが、彼らは

戦地で少年を愛したと言われます。彼らの性愛の対象となったのは、サーキーと呼ばれるお酌係でした。現在、イスラム教では飲酒が禁じられています

が、当時はまだ厳しい規定はなく、戦士たちはそれなりに酒をたしなんでいたようです。サーキーに採用されたのは、見目麗しい美少年たちでした。8世紀ごろのアラブの詩人アブー・ヌワースは、赤ワインとサーキーをとくに愛したとされています。『千夜一夜物語』では、彼が3人の美少年を自宅に連れ込んで乱交を楽しんだとか、酒場

で一目ぼれした美青年に財産を貢いでしまい、身柄を質屋におさえられたなど、滑稽囃の主人公にされています。

アブー・ヌワースは、生涯を通じて少年と酒を愛し続けました。彼はキリスト教徒、ユダヤ教徒、ゾロアスター教徒の少年たちと楽しんだことを認めています。異教徒の少年たちと交わったのは、イスラム教徒としての義務からだったと、言い訳めいた主張をしています。少年愛を艶笑譚として楽しめるほど、かつてのイスラム世界は寛容だったのでしょうか。

神話・古代編…… FILE ⑥

# 禁断の愛を育んだ 中国の王族と宦官

## 去勢された後宮の奉仕者

古代のアジアの覇権を握った中華帝国でも少年愛はしっかりと育まれていました。清の時代に書かれた歴史書『閱微草堂筆記』によれば、中国では紀元前2500年頃の黄帝の時代に始まったとされています。黄帝は実在したのかどうかすらわからない神話的な存在ですが、中国史上最初の皇帝だともされています。

最古の少年愛に関する記述は『書経』の中の『伊訓』に記されています。中国で実在が確認されている最古の王朝

である殷の時代の道德の書というべきもので、位を嗣いだ王子に対して君子が慎むべきあやまちを挙げて戒めています。

そのひとつとして、頑童（男色の相手になる少年）にむつぶ（交際する）ことが挙げられているのです。これは、この時代にすでに少年愛が行われていたことの証拠といえるでしょう。また、春秋戦国時代の書にも、男色の記述は多く、少年愛は古代中国においても広がっていたと考えられます。

上海大学の教授が著した『中国性愛文化』によれば、前

漢の劉邦から平帝に至る13人の皇帝のうち、同性愛の経験がある皇帝は10人にものぼると指摘されています。

なかでも印象深いのは、文帝が愛した鄧通とのエピソード。文帝の背中につきものができたときには、口で膿を吸い出すなど、甲斐甲斐しく奉公したと伝えられています。

こうした歴代皇帝が愛したのが宦官と呼ばれる人たちでした。宦官とは、去勢された男性のことで、去勢を行った理由は、皇帝の後宮（ハーレム）に、女性を妊娠させる恐れのない男性労働力を提供す



第一章

神話・古代編



る必要があったからです。宦官は料理から裁縫、演芸まで、さまざまな技能をもっていました。その目的ごとに組織化され、後宮の女官や皇帝に対して、さまざまな奉仕を行ったのです。

中国での去勢は、紀元前1300〜1400年頃から行われていたとされていいます。当然ながら古代の技術力ですから、よく失敗して命を落とすこともありました。そのため、無事に宦官になれるのはごくわずかだったといえます。何とか宦官になっても、奴隷労働ともいえるような過

酷な労働が待っていました。

### 宦官には2種類あった

そんな宦官のなかにも美少年がおり、皇帝たちはそうした美しい宦官を同性愛の相手としました。時代が進むと、

皇帝の近くに仕えられるという出世の手段として進んで宦官になりたがる人も現れました。そのなかには、明らかに異民族出身の人も含まれていました。漢の高祖・劉邦が愛したという宦官・籍孺も、異民族だったのではないかと

系やローマ系の民族出身者なら、碧眼白晳の美少年だったかもしれません。

宦官には二つの種類がありました。成人してから去勢した宦官は「貞（てい）」、幼い頃に去勢された宦官を「通貞（つうてい）」と呼びました。前者はおもに主要な労働力として召し抱えられ、彼らはあまり美しくはなかったそうです。排尿の調節ができず、よく失禁することもあり、そのため、よく「腐貞」と、バカにされていたようです。

一方、後者の「通貞」は生涯純潔という意味があるそう



で、第一次性徴期になると、胸が張り、お尻が膨らんで、まるで少女のような体型になることもあったとか。なかには美少女顔負けのルックスに育つこともあったそうです。「通貞」はキレイに着飾ることが許されており、化粧さえしていたといえます。そんな容貌だったのだから、皇帝から寵愛を受けても何ら不思議はありません。ヨーロッパのような純然たる少年愛というよりは、どちらかといえば、女装子やニューハーフを好きになるのと同じ感覚だったのかもしれません。

この「通貞」は、「貞」のように馬車馬のように働かされることはありませんでした。その代わり、後宮の女官たちに対して、特殊な奉仕をしていたとされています。これは、おそらく性的な奉仕でしょう。後宮というのは、千人を超える女性に対して男性は皇帝ひとりという歪な構造なので、女官たちの欲求は溜まる一方。中性的な少年に求めたことといえば、やはりソレしか考えられません。「通貞」は後宮という特殊な環境における性のはけ口だったのだといえるでしょう。

宦官のなかには、秦帝国滅亡の元凶と言われる趙高や、三国志の十常侍など奸臣として悪名を馳せた者もいますが、偉業を成し遂げた者も少なくありません。あの『史記』を記した司馬遷や、製紙法を開発した蔡倫も宦官です。中華帝国における宦官の歴史は、いわば中国史の裏側でもあります。いずれにしても、その存在が皇帝の心と体を慰めたのは確か。女好きで知られた劉邦も、晩年は宦官の膝枕で癒されたと言います。歴史を陰で支えたといっても過言ではありません。

神話・古代編…… FILE⑦

# 古代文学に見る日本の男色

光源氏も少年を愛した？

日本では古くから「同性愛」ではなく、「男色」という言葉が用いられてきました。

男色とは、言わずもがな男性による同性愛を指し、英語での「homosexuality」にあたります。しかし、英語では蔑視ニュアンスが含まれているのに対し、日本の「色」という表現には、恋愛において肉体関係と精神的関係を明確に二分しないことで肉欲の面を持ちながら、それを低俗と見なさない点に特色があります。そしてまた男と女の恋に

かぎらず、男と男の恋も「色」とみなされていました。「色道ふたつ」という表現が生まれたのも、そうした意識からでしょう。

そんな日本にあっても、同性愛は、古くは『日本書紀』の神功皇后の一説で男色は阿豆那比之罪（あずないのつみ）として天をもくります禁忌とされていたそうです。しかし、時を経るごとに男色はタブーではなくなっていました。

かの有名な『源氏物語』にも、男色を匂わせる一説があります。光源氏は小君という少年と恋人関係にあったと言

われているのです。

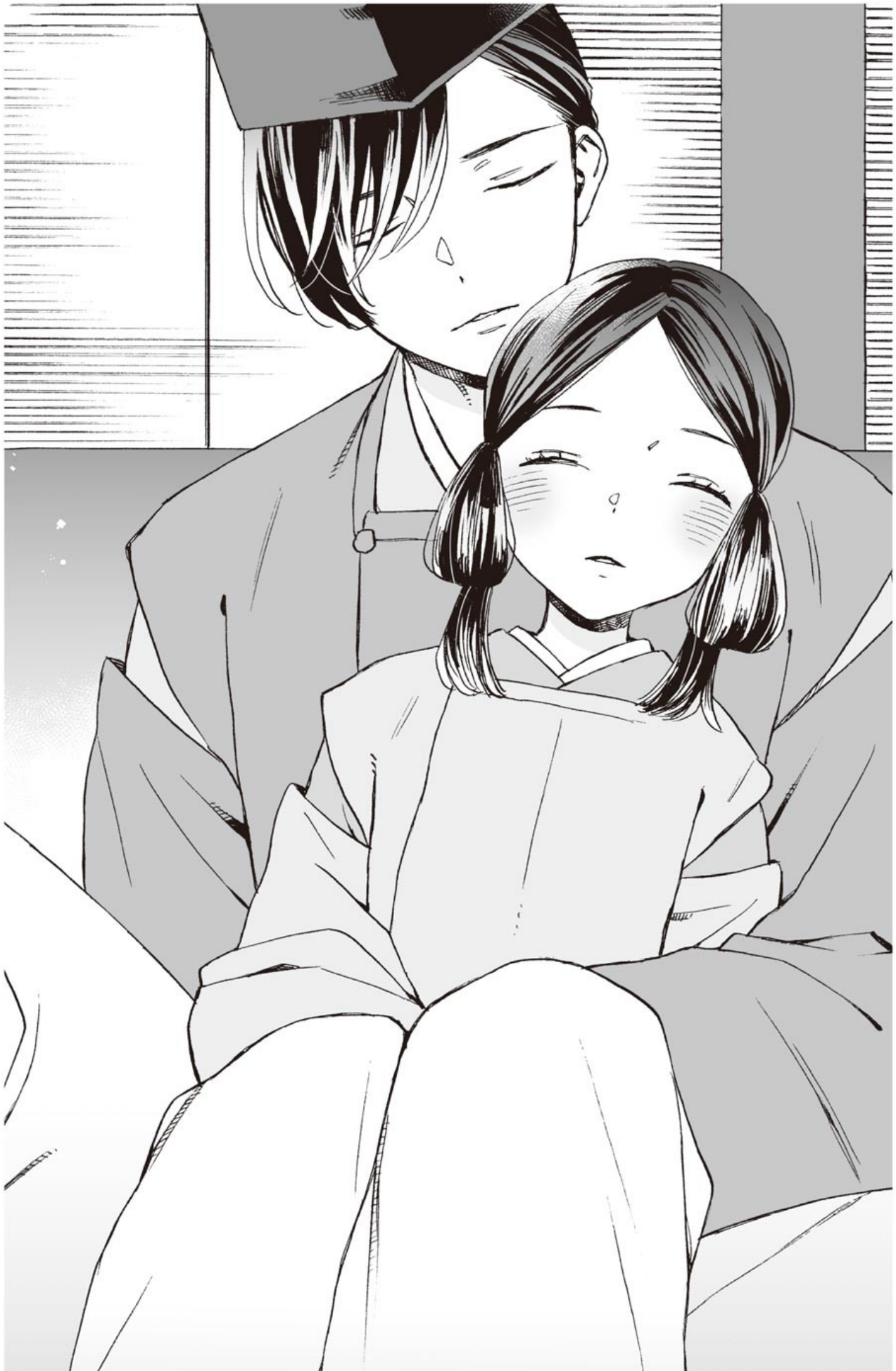
この少年はつれない人妻の弟で、光源氏は彼を使って人妻を振り向かせようとしていました。そんな人妻の面影をたたえる小君に、光源氏はだんだんと惹かれていきました。小君もまた、光源氏に純粋な好意と憧れを抱くようになりました。

光源氏は小君を一日中待ち、「私が思うほど、あなた（小君）は私のことを思ってくれていないのですね」と恨み言を言います。モテモテの光源氏も美少年には手を焼かされたのです。



第一章

神話・古代編



コラム①

# 世界各地の習俗的同性愛

世界各地にいる民族のなかには、同性愛とも思われるような行為をしている部族もあります。それらはすべて、儀礼として行われていたようです。

たとえば、オーストラリア大陸の北にあるメラネシアの島々に住む部族の間では、少年を一人前の男にするための通過儀礼として、少年の体内に成年男子の精液を注入する風習がありました。

少年たちは9歳か10歳に達すると、それまで一緒に住んでいた母親や姉妹から切り離され、一人前の男になるために女人禁制の「男の家」に入ります。サンビア族の場合はオーラルセックスで、マリンド・アニム族の場合はアナル・セックスで、少年たちの体内に精液を注ぎます。

また、オーストラリア大陸にいた旧部族であるアボリジニでは、若者が少年と結婚する「少年妻」の制度が広く普及していました。アボリジニの少年は、割礼を含む通過儀礼を終えて、一人前の男として認められて結婚できるようになります。しかし結婚する権利を持つ娘がまだ生まれていない場合や、生まれていても、まだ幼くて結婚年齢に達していない場合には、娘と結婚できるようになるまでのあいだ、その兄である少年を一時的に妻にする習慣があったのです。少年妻になるのは割礼前の少年で、先に紹介した部族のように、体内に精液を受け入れるそうです。

こうした民族（部族）による習俗的な同性愛は、意外と世界中で行われているのかもしれないですね。





## 第二章

同性愛を厳しく罰したヨーロッパと僧侶や武士に愛された日本の稚児

# 中世編

中世編…… FILE①

# 中世ヨーロッパの同性愛に対する態度

## 揺れ動く同性愛

古代都市国家においては、少年愛や同性愛に寛容だったヨーロッパでしたが、中世に入り、キリスト教の価値観が支配的になると、性に対する姿勢は寛容から不寛容へと大きく変化していきます。

ただし、初期キリスト教では、同性愛について強く禁じているわけではありませんでした。キリスト教的価値観の礎となった『新約聖書』では、禁じるどころか、同性愛を匂わせるような記述さえあります。にもかかわらず同性愛が

強く禁じられるようになったのは、教団が組織化され、キリスト教がヨーロッパ全土へ広がるにつれ、禁欲的で排他的な教義がつけられていったからと考えられます。

そのなかで、最もはっきりと性について述べたキリスト教徒がいました。それがアウグスティヌスです。彼は中世以前の人物ですが、『三位一体論』『神国論』『告白』などを著し、その考え方は中世以降、信者から圧倒的な支持を得ました。アウグスティヌスは今でも聖人として称えられています。その一方で、彼の台頭

が、キリスト教が同性愛を攻撃するターニングポイントとなったともいわれています。

アウグスティヌスは、その晩年において、同性愛を厳しく弾劾しました。たとえば『告白』のなかには次のような趣旨の記述があります。

——「本性に反する汚れた行為はいたるところで、如何なる時にあっても、嫌悪され処罰されるべきである。ソドム人の行為はまさにそうであった。このような行為は、たとえすべての民族が行おうと、神の掟によって同一の罪の責めを負わなければならない。



人間は、このような仕方であ  
る。』(海野弘著『ホモセクシャル  
の世界史』より訳文抜粋)

ここで登場するソドム人  
は、聖書のなかで神に滅ぼさ  
れた背徳の都市のことを指し  
ています。ただ、アウグスティ  
ヌスの場合は、同性愛だけを  
攻撃していたわけではなく、  
異性愛についても否定的な見

解を示していたので、性的な  
もののすべてに嫌悪感を抱いて  
いたとも考えられます。

こうした考え方が浸透し、  
ローマ帝国ではユスティニア  
ヌス帝の頃に、教会の基準に  
よって、同性愛を姦淫に含め、  
罰則としました。

その後、ローマ帝国が崩壊  
し、12世紀に入ると、同性愛  
に寛容な修道士や王侯も登場  
するようになったことで、神  
学者たちの同性愛を罰する傾  
向も緩みました。その結果、  
ゼウスに仕えた美少年ガニユ  
メデスが、同性愛者たちのア  
イコンとなるようなこともお

こりました。

ところが、続く13世紀にな  
ると、突如として同性愛に対  
する不寛容さが増していきま  
す。同性愛は異端やイスラム  
と結び付けられ、個人の自  
由は厳しく制限されるように  
なっていました。

このように、中世ヨーロッパ  
では同性愛は受け入れられ  
たり、排除されたりを繰り返  
しながら、長い戦争の時代を  
迎えます。ただし、決して  
同性愛者が消えたわけではな  
く、アンダーグラウンドでは、  
同性愛は育まれ続けていたの  
です。

中世編…… FILE②

# 少年たちを愛して 殺害したジル・ド・レ

## 王家をしのぐイケメン貴族

中世ヨーロッパにおいて、  
残虐でいびつな少年愛を貫い  
た男がいました。その名前は

ジル・ド・レ。1404年、  
フランスの名門貴族の家に生  
まれ、洗練された教養と知性  
を持ち合わせたスーパーセレ  
ブでした。幼少期からラテン  
語を流ちょうに話し、音楽、  
文芸、美術への造詣も深かつ  
たといいます。さらに、金髪  
で青い目、男らしい濃い眉毛  
をたずさえた凛々しい美少年  
に育っていききました。

そんな誰もがうらやむよう

な境遇のなか、ジルの運命が  
変質していくのは、幼くして  
両親が相次いで亡くなり、孤  
児になったことが影響してい  
るとされています。

ジルを引き取ったのは、母  
方の祖父ジャン・ド・クラン  
という人物でした。祖父は孫  
のジルを甘やかし、過保護に  
育てました。ジルに悪い知恵  
を吹き込んだのも、この祖父  
だとも言われています。

ジルは、16歳で領主の娘  
と結婚しますが、この花嫁  
は、誘拐されてきた娘でし  
た。真相は定かではありません  
が、政略結婚による領土拡

張を狙った祖父の企んだ誘拐  
だとも言われています。仮に  
祖父の意思ではなかったとし  
ても、そのような略奪婚を容  
認する保護者のもとで育った

こと自体、かなり異常な家庭  
環境だったことはまちがいあ  
りません。子どもの頃から、  
何不自由ない暮らしをしてい  
た万能感ゆえでしょうか、少  
なくともジルのなかに、欲し  
いものはどんな手を使ってで  
も自分のものにするという異  
常なまでに強い感情が芽生え  
ていたと考えられます。戦場  
でも略奪に走り、敵に対して  
容赦のない姿勢も、彼の悪魔



illustration by 加賀城ヒロキ

第二章

中世編



的な一面をのぞかせていました。とはいえ、貴族のあいだでもスターであり、名声は王家をもしのぐほどだったジルのことを異常者呼ばわりする人はいませんでした。それどころか、誰もが羨望のまなざしを送り、民衆からは尊敬の念を向けられていたのです。

### ジャンヌの存在

1425年頃、ジルは、軍人として初めて戦場に出向きます。当時、祖国フランスはイギリスと百年戦争の真っただ中にありました。宮廷では

陰謀が渦巻き、国土は荒廃しきっていたのです。指揮官として戦場に赴いたジルは、その勇敢さで一目置かれるようになりました。

その戦場で、ジルは運命的な出会いを果たします。当時、わずか17歳だった少女ジャンヌ・ダルクです。神の声が聞こえるというジャンヌに対して、フランスは国家の命運を託していました。信仰心の篤さを買われ、ジャンヌのお目付け役となったジルは、ジャンヌに感化され、心酔するようになりました。

しかし、1431年、ジャ

ンヌは戦場で捕虜にされると19歳という若さで火刑に処されてしまいます。

ジルは王に救出の兵を出すよう懇願しましたが、ジャンヌ又反対派の意見もあり、王は消極的でした。つまり、フランス軍はジャンヌを見捨てたのです。ジャンヌに心酔していたジルの失望は、想いもできないほどだったでしょう。この頃からジルに異変が生じます。

### 黒魔術と自堕落な生活

ジルはフランス西部ナント



近郊に位置するティフォー  
ジュ城に引きこもり、かつて  
の勇敢な軍人とはほど遠い、  
自堕落な生活を送るようにな  
りました。

芸術に造詣が深いため、使  
用人を着飾らせ、美しい歌声  
を響かせる聖歌隊を作り、そ  
の豪華な制服をデザインした  
りもしました。フランス屈指  
の資産家であったジルは、潤  
沢な資産を惜しげもなく散財  
していきました。そんな自堕  
落な生活を送るなか、ジルは  
黒魔術と出会い、次第にのめ  
り込んでいきます。

ジャンヌを失い、自分を甘

やかしてくれた祖父をも失っ  
たジルは、黒魔術に心の救い  
を求めたのかもしれない。  
いずれにしても、この頃から  
ジルは狂気に染められていき  
ました。

「悪魔に子どもを捧げれば、  
失った財産を取り戻せる」

黒魔術師から吹き込まれた  
デマに、すっかり取りつかれ  
たジルは、残虐な殺人行為を  
繰り返すようになっていきま  
した。

最初の殺人は、1432年  
頃のことでした。城に使いと  
してやって来た12歳の少年を  
手に掛けてしまったのです。

それ以後、ジルは次々と少年  
たちを殺害しました。

ジルはこうした少年たちを  
取り巻きたちに集めさせまし  
た。当時、民衆は困窮を極め  
ており、食事と安定した暮ら  
しをちらつかせれば、簡単  
に少年たちはついてきたので  
す。ジルの召使いたちは、連  
れてきた少年の身体を隅々ま  
で洗い清め、髪を整えて、清  
潔な服を身につけさせたとい  
います。少年たちは、天にも  
昇るような気持ちだったにち  
がいありません。しかし、そ  
んな素敵なひとときもつかの  
間。少年たちはジルの手に

よって、天国から地獄へと突き落とされていきました。

### 残酷すぎる愛撫

おぞましいのは、そのやり口でした。ジルは少年たちに

優しく微笑み、ごちそうとワインを振る舞いました。そして、少年たちがほろ酔いになったとき、ジルは少年たちをベッドへと誘い、その無垢な身体をたくましいペニスで貫いていったのです。

ジルに犯された少年たちも次第に甘美な快楽におぼれていったと言われています。ジ

ルは、恍惚とした少年の表情を眺めることが好きだったようです。

しかし、その甘いひとときの後に少年たちを待ち受けていたのは、あまりにも残酷でおぞましい行為でした。

ジルは、あるときは、少年を縄にかけて天井から吊るし、あるときは性行為の最中に、少年たちの喉を切り裂いて断末魔を聞きながら絶頂を迎えました。

着飾らせ、豪華な食事を与え、愛撫し、油断しきったところを殺す。ジルの歪んだ精神は、幼い頃に養った芸術セ

ンスによって、その残酷性を増していったと言えるかもしれません。

### 祈りと業火に生涯を閉じる

ジルの所業は、最後には裁判によって明らかにされましたが、発見に至るまではそれなりの時間がかかりました。

「城に出かけた子どもたちが戻って来ない」というウワサが、ティフォージュ城の近辺で広まりはしたものの、初めは、誰も救国の英雄を疑うことはありませんでした。高い地位にあり、教養に溢れ、芸



術的センスに恵まれたスーパーセレブが、まさか少年たちを次々と手にかける異常者だとは夢にも思われなかったのです。

しかし、1440年、シルは決定的なミスを犯します。城の所有権をめぐって神父と争いになり、相手を誘拐した挙げ句、幽閉したのです。あまりに乱暴な行動に世間も黙ってはいませんでした。

ついにナント司教がシルの素行調査に乗り出し、城を調査した結果、衝撃の事実が次々と明らかになりました。そこで見つかったのは、「着

衣のない50名もの幼い少年の遺体」「黒魔術が行われた痕跡」「悪魔崇拜」など、異端の数々でした。さらに、80人から200人も少年が、拷問殺人の犠牲になり、手足と頭部を切断されていたことも発覚しました。

法廷に引きずり出されたシルは、救国の英雄として堂々たる態度を見せ、裁判官を罵ったかと思うと、次には、自分は敬虔なキリスト教徒だと訴え、泣き崩れる……。シルの態度は転々と変わり、裁判に立ち会った人々を困惑させました。

シルの告白は、残虐さのあまり裁判記録から削除されたといえます。

裁判の結果、シルはジャン又と同じく火刑に処されました。処刑の際、シルは人々に自分のために祈りを捧げてほしいと願いました。これは民衆にも受け入れられ、シルの体が燃やされる間、祈りの歌が捧げられました。シルは、領民にとっては心優しい領主だったのです。

シルの刑場跡には石碑が建てられ、いつしか「恵みの乳の聖母」と呼ばれ、信仰の対象になりました。

中世編…… FILE ③

# ゲイセクシャルのルネサンス

## 高まる同性愛への渴望

戦乱の時代を乗り越えたヨーロッパで花開いたのがルネサンスです。文化や芸術が大きな変容を遂げた時代として、そのフレーズは広く親しまれています。しかし、その意味についてはぼんやりとしたまま、詳しく知らない人も多いのではないのでしょうか。

ルネサンスという言葉は、イタリア語のリナシメントを語源とする「再生」や「復活・復興」を意味するフランス語に由来しています。

つまりルネサンスとは、そ

の由来が示すとおり、ギリシアやローマの古典文化を復興しようとするムーブメントでした。それは1300年頃にイタリアのフィレンツェを中心に始まり、その後300年以上続いて、西ヨーロッパに広がっていきました。

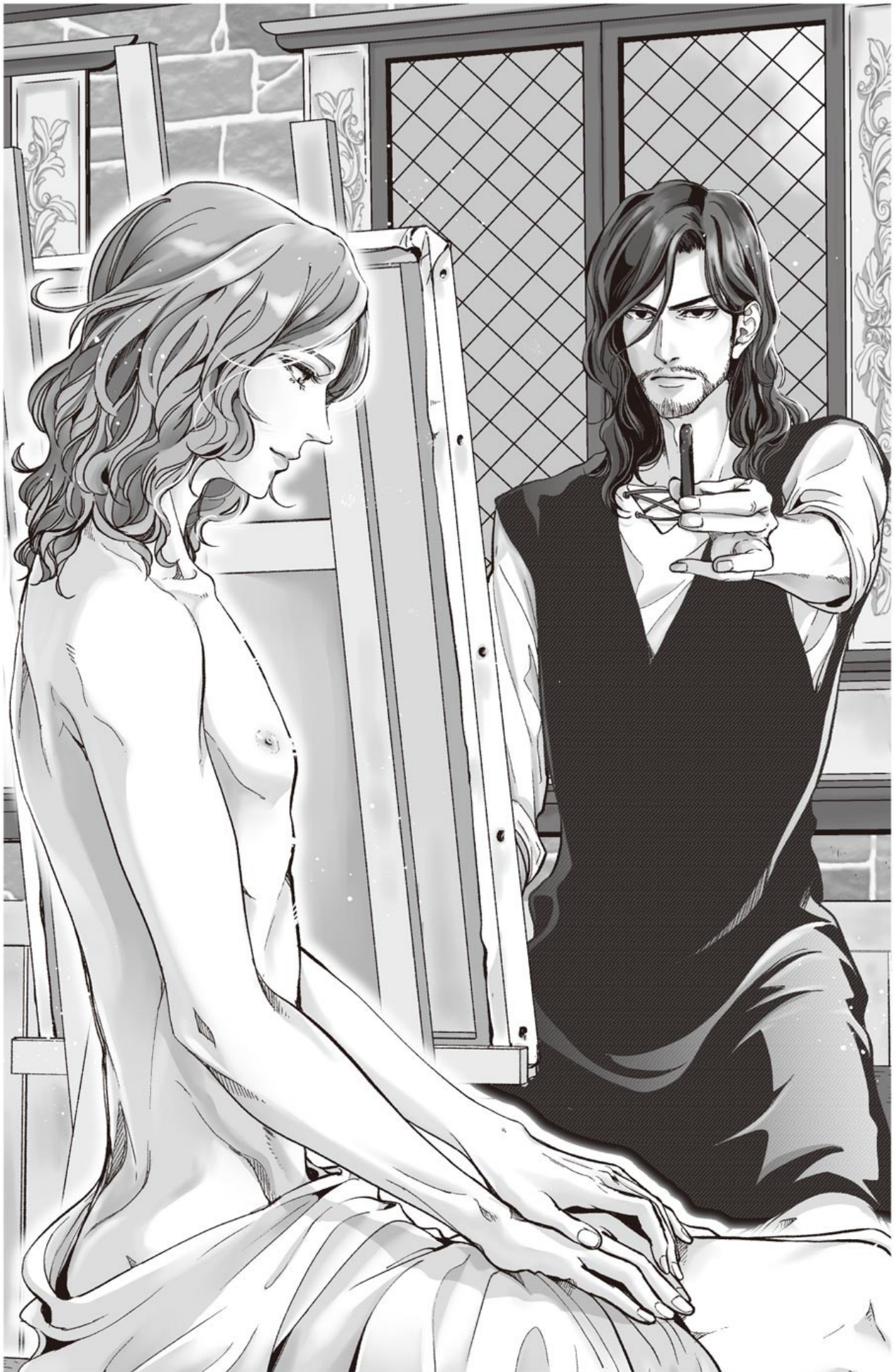
古代ローマやギリシア文化といえば、少年愛や同性愛が広く民衆に受け入れられていた時代でもあります。しかし、中世ヨーロッパでは、キリスト教的価値観が蔓延しており、同性愛は厳しく罰せられていました。ルネサンスの中心都市となったヴェネツィ

アやフィレンツェでは、多くの人が「男色」の罪で罰せられています。たとえば、フィレンツェでは1432年から1502年までに約2500人が罪に問われています。「夜の警察」と呼ばれる同性愛を取り締まる警備隊まで組織されていたほどです。

しかし、それとは対照的に同性に対する愛慕も強く感じられた時代でもあります。こうした同性愛への憧憬は、おもに「友愛」として語られるようになりました。

その代表的な存在が、ルネサンス期の神学者であり、哲







学的な著書を世に出したエラスムスです。エラスムスは正  
式に結婚していない両親のも  
と、ロッテルダムに生まれま  
した。不幸な少年時代を過ご  
し、修道院に入った彼は、そ  
こでセルヴァティウス・ロゲ  
ルスという友人に「友愛」を

ムスでさえも、同性愛に近い  
感情を爆発させているのです  
から、こうしたムーブメント  
は広く民衆にも広まっていた  
と考えられます。

### ダ・ヴィンチの秘めた欲望

捧げています。友情と呼ぶ  
にはあまりに情熱的なラブレ  
ターを何度もしたため、友人  
に送っています。残念ながら、  
セルヴァティウスには届かな  
かったようで、この友愛が実  
現することはありませんでし  
た。しかし、ルネサンス期の  
人間哲学をけん引したエラス

ルネサンス期の画家や彫刻  
家は、古代ローマやギリシア  
を復興するため、ガニユメデ  
スなどに代表される中性的な  
美少年を作品のなかに表現す  
るようになりました。その代  
表的な作家が、かの有名なレ  
オナルド・ダ・ヴィンチです。  
ダ・ヴィンチは、サルタレッ

リ事件と呼ばれる男色の告発  
を受けて、同性愛の嫌疑をか  
けられたことがあります。サ  
ルタレッリという17歳の少年  
が、多くの相手と男色関係に  
ふけているという告発状の  
なかに、その相手として、ダ・  
ヴィンチの名前も書かれてい  
たからです。結論から先に言  
えば、裁判にはかけられたも  
の、ダ・ヴィンチは無罪放  
免となりました。しかし、ダ・  
ヴィンチに同性愛の兆候が  
あったのは事実のようです。  
たとえば、ダ・ヴィンチは  
1490年に、サライという  
少年を雇っていますが、彼は



非常にわがままで、何度もダ・

があったんですね。

ましく、むしろ男性像に乳房

ヴィンチを裏切りました。そ

をつけたのでは？　と思わせ

れでもダ・ヴィンチは彼を養

### ガチムチ好きの有名芸術家

るほど、勇壮なものとなって

い続け、26年間もそばに置い

います。そのため、ミケラン

たとされています。

ダ・ヴィンチが中世的な美

ジェロは女性のヌードは、男

さらに、晩年にはフラン

少年をモチーフにした作品を

性のヌードに劣ると考えてい

チエスコ・メルツィという若

残したのに対し、ガチムチ系

たとも指摘されています。

者を愛したとも言われていま

の男性をこよなく愛したのが

では、なぜミケランジェ

す。この若者は、ダ・ヴィン

ミケランジェロです。

ロは女性の像を作ったので

チが遺した膨大なノートを遺

その代表作であるダビデ像

しょうか。その背景にあるの

産として受け継ぎました。ダ・

は、筋骨隆々とした男性をモ

は少年への愛の葛藤だともさ

ヴィンチがゲイだったと裏付

チーフとしていました。また、

れています。当時、ミケラン

ける証拠はありませんが、少

ミケランジェロは「夜」「夜

ジェロが活動していたフィレ

なくとも少年に対する深い愛

明け」と名付けられた女性の

ンツエでは、同性愛に対する

情を持っていたことは確かな

ヌード像も作っていますが、

非難が高まっていました。そ

ようです。誰もがその名を知

どちらも女性にしてはボディ

こで、自らの胸のうちに秘め

る有名芸術家にも意外な一面

ビルダーのように筋肉がたく

た欲望をカモフラージュする

ために、女性のヌード像をつくったともされています。

その私生活を探ってみると、ミケランジェロがある若い貴族に恋をしていたことがうかがい知れます。その男性の名は、トンマーズ・デ・カヴァリエーリ。出会った当時、ミケランジェロは58歳、トンマーズは23歳でした。ずいぶん年の差ですが、ミケランジェロはいたって真剣に恋をしていたようです。

ミケランジェロは、彼に対して愛の詩を数多く捧げ、「ガニユメデスの誘拐」というデッサンを贈っています。こ

れまで何度も触れてきましたが、ガニユメデスは全知全能の神ゼウスにその身をさらわれ、肉体を奉仕した同性愛を象徴する神話の人物です。

デッサンを贈った背景には、ミケランジェロがトンマーズをさらって、ゼウスのように愛してみたいという秘められた想いが込められているのではないのでしょうか。

これに対して、トンマーズもミケランジェロに応えるような愛の告白文を綴っていました。二人の間に肉体関係があったかどうかは定かではありませんが、精神的にはかな

り深い関係になっていたことはまちがいなさそうです。

ただ、ミケランジェロはこうした愛の手紙や詩がスキャンダルになることを恐れていました。結局、ミケランジェロがしたためた愛の手紙は、1863年になるまで原文が封印されていたのです。

このように、ルネサンス期の芸術家は自身の内から湧き上がる同性愛の衝動と、社会的な風潮との間で常に葛藤にさらされていたようです。その葛藤こそが芸術へと向かうモチベーションになっていたのかもしれない。



illustration by アキハルノピタ

第二章

中世編





中世編…… FILE④

# ドラキュラ公が抱えた 美しき実弟への愛憎

## ヴラドに刻まれた憎悪の記憶

映画やアニメ、小説などで作品化され、今も世界中の人々を魅了してやまないドラキュラ。そのモデルになったのは、ヴラド3世というワラ

キア公国（現ルーマニア南部）の貴族でした。ドラキュラという名前の由来は、ヴラド3世の父親が、「ドラゴン騎士団」に所属していたことから、本来は龍を表す言葉「ドラクル」が変化したものだといわれています。

そんなドラキュラですが、最近、動画配信サイトのオリ

ジナルドラマで、ドラキュラが同性愛者やバイセクシャルだという描写があつて大きな波紋を呼んでいます。賛否両論が巻き起こり、LGBT界隈ではちょっとした騒動にもなっています。

ただ、実はルーマニアにおいても、ヴラド3世が実はゲイセクシャルだったのではないかという指摘がされているのです。これまであまり語られてこなかった説なので、裏付ける証拠はあまりありません。しかし、彼が辿ってきた半生と、当時の背景を追っていくと、少なくとも同性愛と

の接点はあつたことは考えられます。

ヴラド3世の父親はワラキア公国の君主でした。当時のワラキアは、ムスリムを国教とする中世最大の帝国・オスマン帝国と隣り合っていました。そのほかハンガリー王国とも敵対しており、常に周辺諸国の脅威にさらされていたのです。

そして、ハンガリー王国に攻められたとき、ヴラド2世は亡命せざるを得ませんでした。その際、亡命先に選んだのは、敵国でもあつたはずのオスマン帝国。欲しかったの



illustration by 夏目かつら

第二章

中世編



は帝国の支援で、ヴラド2世は取引をして、何とかワラキアに復帰することになりました。その際、次男であるヴラド3世と、三男のラドウはオスマンの王宮に人質として預けられます。この時、ヴラドはまだ11歳でした。

当時のオスマン帝国では、男色が一般的に行われていました。その主役を担ったのは少年たちです。キョチエクと呼ばれる芸能者や、テッラク（浴場で背中を流したりマッサージュする役）に従事する少年が売春に携わっていました。彼らの多くはムスリムで

はなく、他国から売られてきた者たちでした。キョチエクは、オスマン文化の中心的存在になるほど隆盛をきわめました。その性的慣習は、キリスト教徒からたびたび非難の対象とされていました。「汚らしいソドミーを行う邪教徒トルコ人」とさえ表現されたほどです。

そんな国に、いわば捕虜として捕らえられたヴラド3世。しかも、わずか11歳でしたから、大人たちからどんな仕打ちを受けたかは想像に難くありません。

とくに一緒に捕らえられた

実弟のラドウは、のちに「美男公」と呼ばれるほどの美少年でした。そのラドウが懇意にしていたのが、オスマン帝国の皇帝の息子であるメフメト2世でした。いわば主人と奴隷の関係であり、そんなメフメトに懐いていたということは、ラドウも何らかの関係を持っていたと考えられます。当時、ラドウはまだ幼かったです。そこで、メフメトの寵愛を簡単に受け入れてしまったのでしょう。

一方のヴラドは、メフメトに一切近づこうとはしませんでした。うまく取り入れれば、



オスマン帝国の要職に就くことも可能だったかもしれない。しかし、ヴラドは決してそうすることはありませんでした。ここで、ヴラドはラドとは異なる道を進み始めます。ラドウはオスマン帝国に恭順し、ヴラドは徹底抗戦を胸に誓ったのです。

このとき、ヴラドの胸にはどんな思いが去来していたのでしょうか。仮にヴラドが大人たちの慰み者となっていたとすれば、キリスト教徒である彼は激しい憎悪を覚えたことでしょう。一方、ラドウは5歳で捕虜となり、幼少期

をオスマン帝国で育っています。それほどキリスト教的な価値観が根づいていたわけではなかったと考えられます。要するに無垢であるがゆえに、ヴラドよりもオスマン帝国のカラーに染まりやすかったのです。

そんなラドウに対して、ヴラドは弟に向ける愛情と、ムスリムに染まってしまったことに対する憎悪を抱いていたのでしょう。のちに二人は領土を巡って激しく争うこととなります。

ちなみに、ヴラドは「串刺し公」とも呼ばれましたが、

当時農民に対して行われる処刑法だった串刺し刑を、反逆者であれば、貴族であろうとも容赦なく串刺しにしたということから、名付けられたとされています。

串刺し刑というのは、罪人の肛門から脳天にかけて、太い杭を打ちこむ処刑法です。その方法は、まさにアノ行為を思わせるもの。

あくまで憶測の域は出ませんが、徹底して串刺しにこだわったのは、自身を犯し、愛する弟を変えてしまったオスマン帝国への激しい憎悪の現れだったのかもしれませんが。

中世編…… FILE ⑤

# 聖歌隊を支えた カストラートの悲しき性

去勢少年はサオありタマなし

欧米の映画では、よく教会のミサの様子が描かれます。その際、聖歌隊が唱っているシーンがありますよね。これは神の愛と栄光を称える賛美歌で、起源は6世紀頃にまでさかのぼります。

当時は少年と成人男性で構成され、比較的音域の狭いものでした。

しかし、中世に入ると、即興的な演奏が行われるようになります。さらに時が下リルネサンス期になると、アルトやテノールなど音域によってパー

トが分けられるようになり、各パートでの音域は大きく広がっていきました。もっとも高い音域はカントゥス（現在のソプラノ）と呼ばれ、変声期前の少年と成人男性のファルセットで唱われました。少年の声は大人の声より軽く、成人男性のファルセットはどうしても高音域が限られ、声質にも難があります。

そこで、新たに登場したのがカストラートです。カストラートとは去勢手術を行うことで、思春期に起こる変声を人為的に止めた歌手のことです。去勢手術によって、男性ホルモンが減少することで、身体つきや顔立ちも中性的になっていきます。

カストラートの去勢手術は、睪丸だけを切除し、ペニスは残したまま。そのため、彼らは生殖不能ではあっても、性交不能ではありません。

こうした肉体によって、カストラートたち性愛はアンバランスなものになり、さらに彼らの中性的な魅力を好む権力者の慰み者にされることもありました。

美しい声を奏でるカストラートたちは悲しい性を歩むしかなかったのです。





中世編…… FILE ⑥

# 仏教寺院で広まった日本の男色文化

昔から僧侶の男色はあった！

中世ヨーロッパでは、キリスト教徒の同性愛が厳しく罰せられるようになった一方、同時代の日本では、仏教寺院が男色文化の発信源になりました。

かつて奈良時代の僧侶によく読まれた仏教の経典のなかに『四分律』があります。その内容は僧侶の罪を明文化したのですが、そこには「姪戒（いんかい）」という罪がありました。

僧侶同士でフェラチオをした場合、咥えた方は罰せられ、

咥えられた方は無罪とされるという（法）律があります。さらに、眠っている僧侶を、3人の僧侶が襲い、性交をしてしまった（もちろん男性同士で）場合は、全員が有罪となるという教えも記されています。

『四分律』では、基本的にあらゆる性交渉を禁じていますが、男性同士の性交渉をわざわざ例示して禁じているということは、この律がつくられた頃から、僧侶同士の性交渉があった証拠だとも考えられます。しかも、オーラルとアナルのどちらもしっかりと明

文化しているのは、男同士の性愛をすでに認識していたということでしょう。

女性との交わりを厳しく禁じ、さらに『四分律』があったにもかかわらず、日本の仏教寺院では、時代を経るにつれて、男色を許容するムードが高まっていきました。

そんな寺院で、とくに僧侶から深く愛されたのが稚児でした。

**やっぱり男色はタブー**

稚児は、おもに13〜18歳の少年で、19歳頃になると引退





していきました。

派手な色の水干を着用していましたが、他にも化粧したり、女性的な衣装をまとうこともあり、中性的な存在でもあったようです。

また、稚児には階級が設けられており、皇族や上流貴族の子弟が行儀見習いのために預けられた上稚児、才能を見込まれ、僧侶の世話係となった中稚児、雇われたり、売られて僧のものとなった下稚児がいました。このうち、中稚児以下が男色の対象となつたとされています。

今で言えば「男の娘」のよ

うな存在の稚児が、禁欲中の僧侶たちの劣情の犠牲になったのも仕方の無いことだったのかもしれませんが、初期には、僧侶たちも禁を破っていることを承知で肉体関係をもっていたようですが、もちろん、すべての僧がこうした破戒を黙認していたわけではありません。そうした寺院内の男色行為に「待った」をかけたのが源信です。

源信は浄土信仰を広めた延暦寺の僧侶で、藤原道長など当時の一流貴族が帰依した高僧でした。彼は、自身の著書『往生要集』中で八つの地獄に

ついて書いていますが、そのうちのひとつである「衆合地獄」が、男色を行ったものが堕ちる地獄とされました。そこに堕ちた者は、身体中のあちこちから炎が噴き出し、焼け死んでも生き返り、逃げ出しても狐に噛み食われるという恐ろしい地獄です。そういう特別な地獄まで設定して男色に耽る僧侶を戒めたのですが、結局、男色行為は収まることはありませんでした。

**稚児灌頂は単なる名目？**

こうした風潮を受けて、寺



院では男色行為を行う正当な

完全に正当化されました。

つ必要があり、朝早くに起き

理由づけが必要になりました。そこで、僧侶たちが考案したのが、稚児灌頂（ちごかんじょう）なる儀式です。それを行った稚児は観音菩薩と同じ、神聖な存在と見なされます。つまり、稚児を神格化しようというのです。

この儀式は各寺院で異なる様式で行われました。たとえば、比叡山の稚児は他とは異なる育て方でした。比叡山に仕えた稚児は、読み書きはもちろん、和歌の道、内外の経典に通じることが求められ、襖の開け閉めから歩き方まで、その立ち居振る舞いすべてを美しく保つことを義務づけられました。そのほか、私

ると房楊枝（今の歯ブラシ）で歯を磨き、世話係によって髪を結い上げられ、化粧を施されます。ザクロの化粧水で顔や手足を洗ってきめ細かな肌を目指し、鼻の低い者は、高くするために毎晩寝る際に板で鼻を挟んでいたそうです。つまり、比叡山の稚児は美人でなければならなかったのです。

稚児は肛門で僧侶の性器を受け入れることによって、僧侶を救済することができるとされ、アナルセックスを慈悲の行為としたのです。

語、噂話、他人の批判、高笑いまで禁止。もちろん、勝負事や賭け事、喧嘩といったものも禁じられていました。

こうして稚児を完璧な存在に育ててから稚児灌頂を行います。僧侶たちは欲望のままに、彼らを性に奉仕させていたのです。

強引すぎるこじつけですが、すでに男色文化が蔓延してきた寺院では、稚児灌頂が

さらに、見た目も清潔に保

です。

## 稚児灌頂の式次第

では、稚児灌頂とは具体的にどのような儀式だったのでしょうか。

天台宗の大僧正で直木賞作家でもある今東光は、その修業時代、比叡山麓の戒蔵院で『児聖教秘伝』という奇書を発見し、それを題材に小説『稚児』を執筆しました。

『児聖教秘伝』は、恵心僧都作といわれる書物で、稚児灌頂の式次第が事細かに記されています。

それによると、灌頂を受け

た稚児は化粧道具、宝冠、稚児装束が与えられ、その後、師の席へ移動して観音菩薩として師からお参りされます。

そして、灌頂により稚児が観音菩薩と化したら、いよいよ初めての「床入り」。ここで初めてアナルセックスをすることになるのです。稚児の肛門は仏の座す八葉蓮華にたとえられ、「法性花」とも呼ばれました。この法性花(肛門)は、

開通するまでは清浄を保たなければならず、「隠所の作法」として、常日頃から丹念に手入れをしなければなりませんでした。

先述した今東光は、次のように記しています。

——稚児は先ずよくよく自らの法性花を清浄に洗い「柔らかな紙を能く揉んで拭い油もしくは唾を頭指(筆者註・人差し指)に塗って法性花に入れ、よくよく誘うて後に頭指と中指と、次に頭指と中指と無名指(筆者註・薬指)で誘うて置かなければならない

(今東光著『稚児』より)

要するに、バージンの肛門括約筋はキツすぎて、なかなか師のペニスを受け入れることができないため、よくほくしておくことを求められたの



です。

また、滑らかにペニスが入るよう、丁子（クローブ）の潤滑油や、黄蜀葵根（とろろ葵の根）や通和散（とろろの粉末）、一分のり・海羅丸（海草のフノリを何度も和紙に染み込ませたもの）を口内で噛み、唾液に溶かして、ぬめり薬に似たものを、稚児の肛門と師のペニスに塗ったとされています。

実際に行われる肛門性交では、かなりの暗がりで、しかも、ひと言も会話をせずに行われなければなりませんでした。そこで、意思疎通のため

に行われたのは、「指取十の秘事」という方法。たとえば、人差し指と中指の二本を握られれば「今から挿入する」という合図で、親指と小指の二本を握れば「キスをする」といった合図でした。ほかに、

背中を押せば後ろ向きの合図、ヘソの辺りを押せば前向きの合図というように、無言のまま指で会話をしながら、稚児との性交を進められるようになっていたのです。

そうまでして稚児とセックスしたかったのかと思わずにはいられませんが、儀式としての建前を成立させるために

は、それだけの理屈と手続きが必要だったのかもしれない。いずれにしても、僧侶と稚児との肉体関係はおごそかに果たされ、それぞれの寺院でたしなまれていたのです。

### 空海は男色の開祖か否か

いわば、日本の寺院と男色文化は切り離せないものです。そのため江戸時代には貝原益軒は、「男色の戯れは弘法以来のことなり」と記しました。弘法とは「弘法大師」の名でも知られる空海のこと。この論述によって、日本では

「男色を広めたのは空海」という話が広まっていきました。

ただ、空海が男色文化の祖というのは誤解で、古代の頃から日本では男色が行われていましたし、『四分律』が成立したのは、空海が日本に戻ってくる以前でした。空海が男

色文化を楽しんだかどうかは定かではありませんが、間違はなく日本の寺院では、もっと以前から男色文化が育まれていました。

では、なぜ「男色」空海が最初論」が広まったかといえば、ある意味で空海はスケープゴートにされた可能性があ

ります。そもそも古代ギリシアやローマでも、特定の誰かがキッカで男色が広まったという事実はありません。そもそもこうした恋愛の感情、性行為は本能的で自然発生的に起こりうるものです。

とはいえ、稚児灌頂のような寺院内の稚児との性交の作法をもたらしたのが空海だという可能性はあります。というのも、数々の書物で稚児灌頂の記述がみられるのが空海が唐への留学から戻ってきてからのことだからです。そもそも空海が留学した当時の唐では、空前の男色ブー

ムでした。空海が密教と一緒に、男色文化も持ち帰ってきた可能性は否めません。

禁じられていた男色を合法的に行うために、空海が持ち帰った考え方を都合よく利用した可能性はあります。

「中国では普通のことだ」と空海が伝えたことが広まったのだとしたら、彼が男色ブームを日本にもたらした張本人とも言えるのかもしれませんが。

寺院で育まれた男色の風潮は、やがて武士たちにも受け継がれ、衆道として広まっていきました。



# 平安の男色家 藤原頼長のスゴい遍歴

## 頼長の赤裸々日記

男色文化が流行したのは仏教寺院だけではなく、中世日本の貴族社会でも、かなり行き渡っていました。そもそも平安時代の恋愛観は、現代とはかなり異なります。

たとえば、当時の結婚制度は、男性が女性の家に通う妻問婚（つまどいこん）でした。『源氏物語』をご存知の方なら、イメージしやすいでしょう。また、同性愛にも寛容で、性的にはかなり奔放だったようです。

当時のプレイボーイとして

は在原業平が有名ですが、それは、おもに女性と浮名を流したものの。男色家としては藤原頼長のほうに軍配が上がります。頼長は、平安時代末期の公卿で、父の忠実は関白まで栄進していますから、名門

中の名門出身といえるでしょう。頼長は父親に溺愛され、次男ながら藤原氏の当主に就任しましたが、後白河天皇と、その側近の信西の二人と対立して、その後の保元の乱で戦死しました。

その生涯のなかで、頼長は7人の貴族の男性と関係をもちました。当時の歴史を記し

た『今鏡』によると、頼長は、家柄だけで無く、才能も豊かな美男子として、都じゅうに知られていたようです。

さて、当時の貴族は、子孫のために日記を残すことが一般的でした。とくに藤原氏の嫡流は、当主になった人が代々の日記を受け継ぐ決まりになっていました。そのため、頼長も『台記』という日記を残し、今に伝えられています。この日記の内容が、かなり過激で、自身の下半身事情を赤裸々に語っており、そのなかで男色関係を明らかにしているのです。これはかなり異

例のことで、当時の藤原氏の日記は、宮中での儀式や年中行事の作法、貴族としての振る舞い方など、おもに子孫に役立つ情報を書き記すものだったからです。

頼長も、単に自分の露出趣味の告白として暴露本を書いたわけではないでしょう。幼少期からさまざまな学問に通じ、政治的にすぐれた手腕を発揮した頼長は、男色関係が政治的に重要な力ギを握ることを子孫に伝えるために、あえて書いたのだとも考えられています。

当時の後白河院政下で起き

た政治的事件の多くは、後白河院をめぐる男色関係が影を落としていたからです。つまり、頼長はそうした政治の裏側をも伝えるため、異色の日記にしたのでしょうか。

### 頼長と浮名を流した男たち

では、『台記』に描かれた男性の中にはどんな貴族がいたのでしょうか。

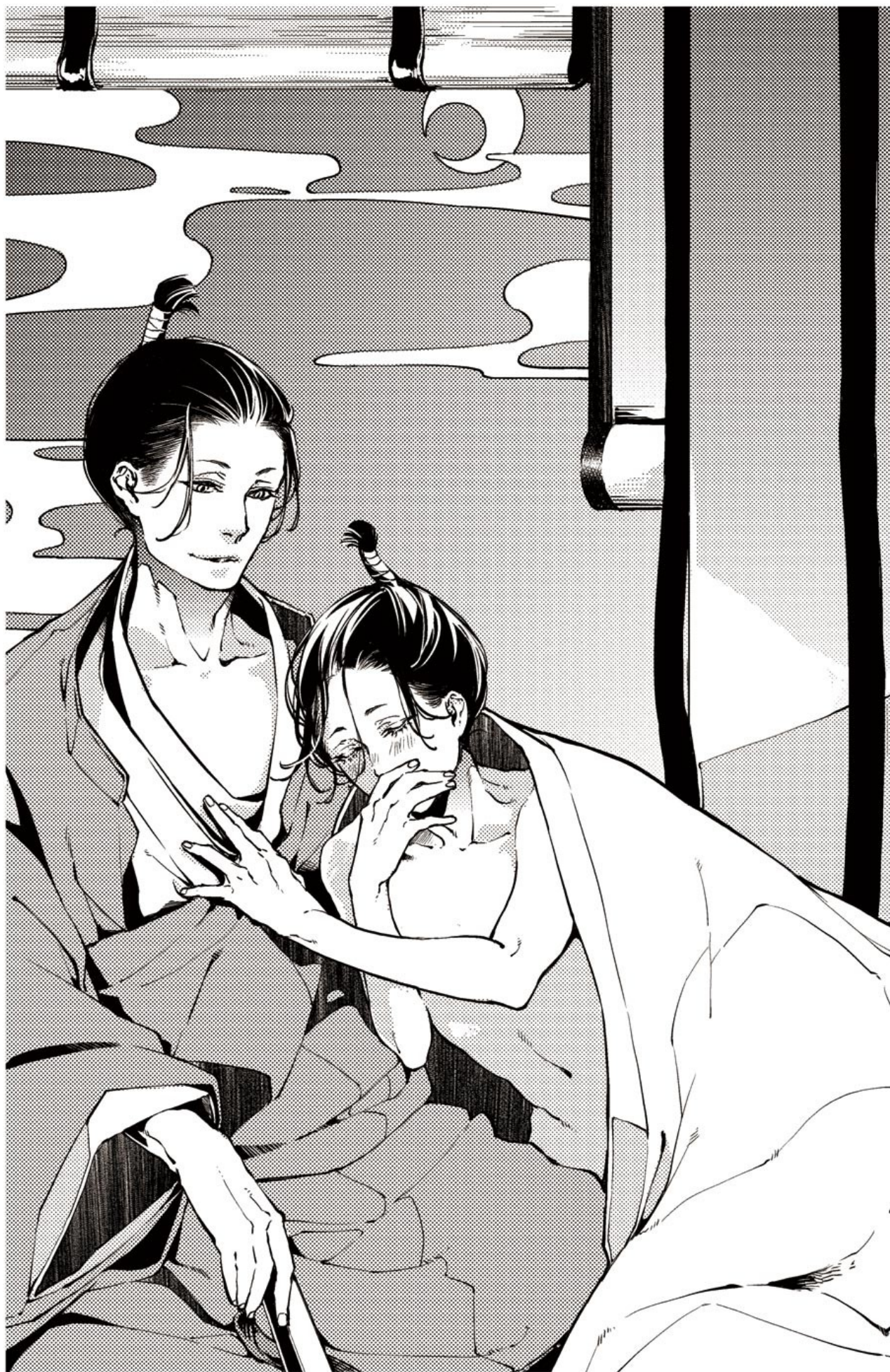
#### ① 秦公春（はたのきみはる）

頼長の側近中の側近で、隨身というガードマンを務めていました。容姿端麗で、頼長

の寵愛を受けて男色関係にありました。公春は位こそ低かったものの、どんな汚れ仕事でもこなしました。たとえば、国貞という召使を殺害した犯人が赦免されたことに怒った頼長は、公春に命じて犯人を密かに殺害させたりしました。

頼長は、彼のことがかなり好きだったようで、公春が糖尿病で亡くなった際には、一カ月も家に引きこもったそうです。そのせいで、時の花園天皇から「いかななものか」とたしなめられました。







② 源義賢（みなものよし）

源義朝の異母弟で、木曾義仲の父にあたる人物。

当時の新興勢力にあたる武家出身でした。義賢は武人らしく、勇猛で荒削りな人で、殺人事件への関与疑惑や年貢の未納といった不祥事で、何度も解官や罷免を食らっては、頼長の元に転がり込んでいました。

ちなみに頼長は、彼に対しては「受け」であり、義賢に突かれまくっていたといわれています。夜のほうも、武人らしく、荒っぽいものだったのでしょうか。

③ 藤原公能（ふじわらのきんよし）

頼長は自身の妻である幸子の実弟とも男色関係を結んでいました。頼長は妻とのあいだに四男一女をもうけていますが、妻と抱き合うその合間に、義弟の公能とも関係をもっていたのです。

まさに外道ではありますが、公能のほうもかなり最低なクズ野郎でした。というのも、頼長が失脚すると、公能はあっさりと頼長を見限って捨ててしまったからです。

愛情や身体の相性よりも、政治的な意味合いのほうが色濃かったのかもしれませんが。

④ 藤原隆季（ふじわらのたかすえ）

後白河院と平清盛の仲が決定的に破局した際、清盛に重用された貴族が隆季です。

美しい外見が頼長の目に留まり、猛烈なラブレター攻勢を受けました。隆季はこれにいつさい応じることはありませんでしたが、それでも頼長はあきらめきれず、今度は恋愛成就の願掛けをしました。

これが効いたのか、ついに隆季は頼長と一夜をとにもすることに……。その後は、隆季も男色に目覚めてしまったようで、2年ほど頼長と関係が続けました。



## ⑤ 源成雅（みなものなりまさ）

もともとは頼長の実父・忠実の恋人でした。

藤原頼輔という貴族と殿上で乱闘騒ぎを起こしたことがあり、その際、頼長に厳しく罰せられたこともあります。性格に問題のある人間でしたが、ルックスには絶対の自信を持っていたそうです。

頼長は常日頃から「あのくそ野郎！」と罵っていました。が、なぜかこの男とも関係をもってしまいます。節操がないというか何というか。頼長の性欲は、計り知れないものがあつたようです。

このように『台記』に記されている内容は、実に赤裸々です。しかも、かなり直接的な表現で書かれており、「漏精」などという記述も見られます。これはお察しのとおり、射精のことです。

頼長の大膽不敵っぷりは、当時の貴族社会でも、かなり稀有な存在だったようです。

また、色事のみならず、そのずる賢さを評して、「悪左府」とさえ評されたほどでした。当時の「悪」には、悪いとかあくどいという意味の他に、したたかであるとか、ずるがしこい、手ごわいという

意味もあるので、敵も多かった反面、かなり頭のキレる人物であつたことはまちがいないでしょう。

相手を手なずけるためには男色さえいとわないうという姿勢は、もしかしたら政治に対する高い志の裏返しであった可能性もあります。

いずれにしても、頼長がいろいろな意味で不世出の存在だったのは確か。中世日本を代表する政治家兼男色家と呼んでも差し支えないのではないだろうか。

中世編…… FILE ⑧

# 戦国武将たちが 秘めた恋心

## 男色は足利將軍家の伝統？

奈良・平安時代に僧侶と貴族を中心に浸透した男色文化は、鎌倉時代の武家社会にも引き継がれました。寺院で稚児と呼ばれた少年たちは、武家社会では「垂髪」と呼ばれ、武士の男色の相手を務めるようになっていました。

時代の潮流に乗って支配階級となった武士は、貴族や僧侶との交流のなかで、徐々に男色文化を吸収していきました。室町時代におよんで、公家や寺院の文化を積極的に取り入れた足利義満の登場以

降、それら中世の文化に含まれていた男色の世界は、「衆道」と呼ばれる戦国武将たちの男色文化へと変容していきます。

その足利義満は、かの有名な能楽師・世阿弥とロマンスを重ねました。少年時代の世阿弥は絶世の美少年。出会いは、義満が17歳、世阿弥12歳のとき。義満はすぐに世阿弥を気に入リ、並外れた寵愛を注いだと言われています。

その後、足利家の歴代將軍は、それぞれ男色をたしなむようになりました。たとえば、4代將軍だった義持は、稀代

の男色家だったとされています。義持が寵愛した人物は数多くいたとされていますが、そのなかの一人に赤松弥五郎持貞という男がいました。義

持の持貞に対する愛情は並々ならぬものがあり、他の家臣の領地を取り上げ、持貞に与えようとさえしました。取り上げられそうになった方にしてみれば、納得がいくわけがありません。義持には抗議が寄せられ、諸大名もそれに呼応しました。その上、持貞も調子に乗って、横柄な態度に終始していたので、義持は泣く泣く持貞に切腹を命じざる





を得なくなりました。

このように、足利家の歴代将軍は、男色がキツカケで身を持ち崩すケースも少なくありませんでした。

### 信長の意中の相手とは？

応仁の乱を経て、戦乱の世を迎えると、武将たちは戦場において性の対象を男性に求めるようになりました。

おそらくBLに興味のある読者のみなさんなら、武将と小姓という関係に妄想をふくらませた経験のある方も多いことでしょう。

武将と小姓の間に生まれた性愛の関係が、まさに「衆道」。「衆道」は、単なる男色というだけではなく、精神的なつながりを大事にする傾向がありました。小姓は主君に対して絶対的な従属を誓い、主君はそれに応えることで、強い信頼関係を築いていったのです、いわば、ティーバイの神聖隊を思わせるような、固い契りを結んでいたのです。

戦国武将の男色の例として有名な人物に織田信長が挙げられます。とくに有名なのは森蘭丸との関係。江戸時代には、あまりに有名なカップル

として知られていました。しかし、この二人には肉体関係はなかったというのが現在の通説になっています。要するに後世の人々が、今でいうカップリングの妄想を膨らませた結果だったのです。

事実として信憑性の高いのは、前田利家との関係です。利家は14歳のときに信長に仕え、翌年には正式に小姓として迎えられました。利家は、180cmを超える長身で、槍の名手だったといいますが、細マッチョ。しかも美形だったようです。若いときには信長に添い寝していたとい



う記録もあり、利家が藩祖となつた加賀藩の言行録『亜相公御夜話』によれば、ある宴席で信長から若い頃の衆道の打ち明け話をされ、他の家臣に羨ましがられたとされています。

### 伊達政宗のラブレター

様々なゲームやアニメでキャラクター化されている武将・伊達政宗。

黒一色の甲冑に左右非対称の弦月形の金色の前立といった出で立ちで戦場を駆け抜ける男気溢れる青年武将のイ

メージですが、彼もまた衆道の実践者でした。

政宗の衆道の証拠として知られているのが、只野作十郎という美少年に宛てたラブレターです。この手紙、ラブレターであることは確かなのですが、中身は謝罪の言葉ばかり。実は政宗は、可愛がっていた作十郎の浮気を疑い、ある宴会の席でそのことをのしってしまったのです。

作十郎は、そのことに怒り、自分の腕を切った血で血判を押した、潔白を主張する手紙を政宗に送りつけました。それに驚いた政宗は、ただちに

言い訳の手紙を送り返します。その内容は、おおよそ以下通り。

・酔っていてあまり覚えてないけど、酷いことを言ってごめんなさい。腕を切って血判を押すほど傷つけてしまったんだね。

・あれは、悪いやつのご報告のせいだった、本当は、お前を信じてる。

・お返しに俺も身体を傷つけて証明したいけど、この歳だし、笑われてしまうだろう（だからそういうのはできないんだ）かわりに血判を押した起請文を贈ります。

・これで、俺のことを許して、  
いままでみたいに付き合っ  
てください。

この手紙が52歳のときのも  
の。いい大人が……。と言  
われてしまうような内容で  
すが、惚れた弱みで平身低頭  
する姿を想像するとちよっと  
キュンとしませんか？

### 男色に翻弄された会津の盟主

蘆名盛隆。男色関係に翻弄  
された武将です。会津地方を  
領有していた蘆名家の18代当  
主だった盛隆は、16歳の美少  
年、松本太郎行輔に恋をしま

した。しかし、行輔には、す  
でに栗村下総守盛胤という恋  
人がいたため、盛隆の想いが  
受け入れられることはありません  
でした。

恋いに敗れた盛隆は、恋敵  
の盛胤を逆恨みます。そこ  
で盛胤は愛する行輔とともに

挙兵し、盛隆の居城を攻めた  
のです。しかし蘆名軍は強く、

恋人同士で挙兵した二人は  
あっという間に敗北し、盛胤

は戦死してしまいました。盛

隆は、行輔を助命しようとし

ましたが、行輔はそれを断り、  
結局自決してしまいました。

その盛隆も、今度は常陸の

大名、佐竹義重に攻められま  
す。ところが義重は、戦場で  
目にした敵の盛隆に一目ぼ  
れ。その後、ラブレターを送  
られた盛隆は、芳重と男色の  
契りを結びました。実は、盛  
隆自身も相当な美少年だった  
のです。

男色がらみの噂が絶えな  
かった盛隆ですが、最期は男  
色関係にあった家臣に、浮気  
の恨みで斬り殺されてしま  
いました。

血で血を洗う戦国武士の時  
代、戦場に咲いたのは、男同  
士の恋の花だったのです。





コラム②

# 女人禁制国アトス

ギリシャ北東部、エーゲ海に突き出したアトス半島の先端に標高2033メートルのアトス山と呼ばれる山があります。この山は、ギリシャ正教会の聖地となっており、山の周辺に20もの修道院が点在しています。ギリシャ共和国の領内ではありますが、修道院による自治が認められており、独立国家になっています。1988年には世界遺産に登録されるなど、世界的にも注目を浴びました。

独立国家として認められた理由のひとつに、「女人禁制」という厳格な教義を守っている点が挙げられます。観光客も男だけで、域内にいる家畜もオスのみ。メスが許されているのはネズミ捕りのための猫だけという徹底ぶりです。その地域で暮らしている人のなかには50年以上も女性を見たことがないとい

う人もいます。この島には、これまで何人かの日本人が取材で訪れています。そのなかには作家・村上春樹がいます。その村上春樹はアトス山のさまざまな矛盾を鋭い視点で描きました。まず、アトス山では、食事の節制がルールづけられているが、村上はこれが徹底して守られているかどうか懐疑的な視線を注いでいます。村上は修道士のなかに肥満体型がいることに着目し、「どこかでうまくこそっと栄養補給しているのかもしれない」と指摘しています。そう考えれば、女人禁制の世界で、性欲はどう解消しているのでしょうか。それに対する言及はないものの、村上の視点で見れば、どこかでこそつとしているかもしれません。女人禁制ですから、相手はもちろん……妄想がふくらみます。





## 第三章

同性愛社会が進展し、多様性が萌芽した時代

# 近現代編

近現代編…… FILE①

# ゲイが生み出した 秘密結社

## 大英帝国の裏ボス

皆さんはセシル・ローズという人物をご存知でしょうか。イギリス帝国の植民地政治家で、南アフリカの鉱物採掘で巨富を得て当地の首相にまで上りつめた人物です。

1853年、牧師の家に生まれたローズは、いわばイギリス至上主義を貫く独裁的な性格を持ち合わせていました。現代でいうところのトラップのような人物だと言ってもいいでしょう。1894年にケープ植民地の首相になると、翌年には中央アフリカを

征服。自らの名前にちなんだ「ローデシア」と命名しました。ローズは熱心な帝国主義者で、人種差別主義者でもありました。彼はアングロサクソン（白人）こそ、もっとも優れた人種であり、アングロサクソンによる支配が人類の幸福につながると信じて疑いませんでした。のちに黒人差別の元凶ともいえるアパルトヘイトの原型ともされるグリーン・グレイ法を制定したことで知られています。

そんなローズですが、生涯独身を貫いており、女性のかかわりを嫌う傾向がありま

した。そのため、彼はゲイだったのではないかと言われていますが、そのプライベートはヴェールに包まれており、謎に満ちていたため、真偽のほどは定かではありません。

## セシル・ローズIIゲイ説

この「セシル・ローズIIゲイ説」というのは、イギリス人にとっては、かなりショッキングな説です。というのもセシル・ローズは大英帝国の礎を築いた莫大な資産家だったからです。

ローズが生きた19世紀のイ





ギリスは男性中心の社会でした。クラブからパブに至るまで、どこに行っても男ばかりだったのです。そうして社会の中で築かれた男同士の絆は

なウワサが広まったら社会への影響は計り知れません。とすれば、完全に隠匿されていたと考えるのは自然な流れではないでしょう。

は女王支配に対する皮肉が込められていたと言われている。そのことから、男性社会の優位性を疑わないローズの姿勢がうかがわれます。

強固なものとなり、軍隊やス

では、なぜローズにゲイ疑

ポーツの場で、男同士の「友

惑が生じたのでしょうか。あ

### 世界を支配したB.L結社

愛」が生まれていたともされています。しかし、イギリス

る有名なエピソードがあります。当時のヴィクトリア女王

さて、そんなローズですが、

ではキリスト教的価値観が根

が、ローズに「あなたは女

中央アフリカを支配した際に

づいており、同性愛はタブー

嫌いだと聞いたが本当ですか？」と尋ねました。すると、

秘密組織をつくり、スパイ活動を行っていたというウワサ

ともされていました。そのため、実際に男同士の性行為が

陛下の属する性を嫌いになる

密結社は、あらゆる戦争を誘導したというのです。

あったかどうかは、なかなか

のです。ちょっと日本人の感性

その秘密結社は、ローズに

ましてやローズは帝国主義の

ではわかりませんが、そこに

スカウトされたごくわずかの



白人エリートに青い目をした金髪の若者たちだけによって組織されていたとされていて

す。不確定な説によればローズはその結社の中にさらなる

インナーサークルを設けまし

た。そのメンバーは独身男性

にかぎられており、結婚する

と追放されました。後年にな

ると、そこは若者たちによる

ハーレムのような性質をもっ

ていたと言います。

さらに、そんなローズの

コネクションにアルフレッド・

ミルナーという人物があり、

ローズの帝国主義の後継者と

さえ呼ばれていました。ミル

ナーは、「ミルナー幼稚園」というグループをつくり、それ

はのちに第一次世界大戦を秘

密裏に誘導したとされる「ラ

ウンドテーブル」へと変化し

ていきました。この「ミルナー

幼稚園」には、同性愛的な側

面があつたとされています。

その会員はミルナーによっ

て選出され、誰もがミルナー

に心酔していました。彼らは

「ムート・ハウス（議論の場）」

と呼ばれる男性だけのセク

ションで、レクリエーション

をしていたとされます。全員

がオックスフォード大学出身

者であり、精神的なつながり

を非常に重要視していたとい

います。

そして、彼らが契りを立て

るときは、兄弟愛の誓いに

よって結ばるのです。女人禁

制の組織で、男たちだけが契

りを結ぶ。しかも、セシル・

ローズという稀代の女嫌いに

して、生涯独身を貫いた巨星

の存在が背景にあつた……、

ミルナー幼稚園に同性愛的な

面があつたことを意識しない

ほうが不自然でしょう。そん

な組織が、第一次世界大戦の

引き金を引いたと言われ

ば、Bに闇の面があるこ

とを感じざるをえません。

近現代編…… FILE ②

# 恋する文学者の 悲劇的な運命

## オスカー・ワイルドの友愛

近代イギリスで、もつとも有名なゲイといえば、『サロメ』や『ドリアン・グレイの肖像』を著した作家・詩人のオスカー・ワイルドでしょう。ワイルドは近代のホモセクシャルやバイセクシャルの歴史を語る上で、最重要人物のひとり。後世のゲイ世界に多大な影響を与えました。

1864年、北アイルランドのダブリンに生まれたワイルドは、性に関して生まれつき特別な素養をもっていた言われています。父は著名な医

師で、母は学者で詩人というセレブ家庭に生まれたワイルドでしたが、母親は女の子の誕生を望み、その願望があまりに強かったためか、両親は幼少期のワイルドに女の子の服を着せて育てました。

特異な育てられ方をしたワイルドでしたが、彼の頭脳は聡明な知性を備えていました。彼の価値観に大きな影響を与えた人物は、トリニティ・カレッジで出会った恩師のJ・P・マハフィです。ワイルドは彼のことを「私の最初の、最高の先生」と評し、学問だけでなく、酒やタバコの

類も彼から教わりました。彼との師弟関係の中で、ワイルドは古代ギリシアについても学んでいます。

本書の中で何度も触れているように、古代ギリシアといえば、少年愛と同性愛が花開いた世界です。ワイルドがここでギリシアのそうした性文化についての知識を得たことはまちがいないでしょう。それらの知識は少年ワイルドの心に強く刻まれたのかもしれない。

マハフィの勧めで、ワイルドは「友愛」で有名なオックスフォード大に進学。そこで





ワイルドは、華美な服装や、独特のアイロニーで注目を集め、時代の寵児としてもはやされるようになりました。

### ゲイに染まる運命的な出会い

30歳になったとき、ワイルドは幼馴染の女性と結婚し、二人の子どもをもうけていますが、これは隠れ蓑的な意味合いが強かったとも指摘されています。というのも、ワイルドは結婚後すぐに、一人の青年と逢瀬を重ねるようになったからです。その青年とは、カナダの法律家の息子で

ケンブリッジ大学に留学していたロバート・ロスです。誘ったのはロスからでしたが、ワイルドはすっかり彼の虜になってしまいました。それからというもの、ワイルドは夜

はありましたが、美貌を誇るタイプではありません。美へのこだわりが強いワイルドは、別の男の子に惹かれるようになります。

な夜なゲイの集まる秘密の会合に赴き、淫蕩な二重生活をスタートさせます。ロスとの仲は日々深まり、単なる恋愛関係を超えた信頼関係が築かれていきました。その信頼は、ワイルドの死後、ロスが遺産の管をまかされたほどです。

その相手こそ『ドリアン・グレイの肖像』のモデルとなったジョン・グレイでした。グレイについては、これまで詳細が明らかにされてきませんでした。近年の研究によつて、ワイルド好みの金髪的美青年だったことがわかっています。

しかし、ワイルドは、決して一途なゲイではありませんでした。ロスに誠実な青年で

しかし、グレイは、別の男性にさらわれて、ワイルドのもとを去ってしまいました。



## 奇妙な四角関係

グレイを奪われたのち、ついにワイルドは運命の人に出会います。それが21歳の金髪青年、アルフレッド・ダグラスです。ダグラスは、ボジーというニックネームで呼ばれ、ワイルドの愛を一身に受けました。ワイルドはダグラスについて「さながら、ナルキッソスのようだ」と手紙の中で絶賛しています。

ただ、ダグラスとの恋愛が盛り上がる一方で、人間関係はかなり複雑に絡み合ってい

きます。それはワイルドが『サロメ』を書いたときのこと。『サロメ』の挿絵を描いたのはピアズリーという人物ですが、ワイルドとピアズリーはすぐに仲たがいでしてしまいました。先に述べたロバート・ロスは、ロンドンのゲイコミュニティの中心人物で、多くのアーティストとも親密な関係を築いていました。そのロスの勧めによって、ピアズリーの挿絵が『サロメ』に採用されたのです。

当初、ピアズリーは『サロメ』を翻訳したいと考えていました。しかし、ワイルドは

彼ではなく、愛人のダグラスに翻訳させたので、ピアズリーが機嫌を損ねてしまったのです。それからというもの、ピアズリーはワイルドに対して批判的な態度をとるようになりました。

もちろん、ワイルドもピアズリーのそうした態度が気に入らず、ダグラスとともにピアズリーの悪口を広めました。その結果、ワイルドをダグラスが擁護し、ピアズリーをロスが擁護するという奇妙な四角関係ができあがってしまったのです。

当時のゲイコミュニティで

は、さまざまな人間がとつかえひっかえパートナーを変えては行為に及ぶのが一般的でした。ゲイたちは法律で禁じられていたとは思えないほど、淫蕩な生活を送っていました。ときには恋人のダグラスがワイルドに男を紹介することさえあったといえます。

ワイルドたちの奇妙な四角関係もそんなゲイコミュニティの一端を表していると言えるかもしれません。

### ゲイの正当性を主張

しかし、そんな自由な日々

を送っていたワイルドに悲劇が訪れます。ことの発端は、ダグラスと彼の父ジョン・ダグラスの不仲にありました。

「息子の挙動が怪しい」とダグラスに疑いの目を向けた父親は、ワイルドがダグラスに宛

てたラブレターを目にしてしまつのです。怒りで我を忘れた父親は、ワイルドの定宿を襲い、「オスカー・ワイルドは

ゲイ」と走り書きを残します。

これがワイルドを怒らせました。ダグラス自身もワイルドを焚きつけて、父親を告訴するように仕向けました。

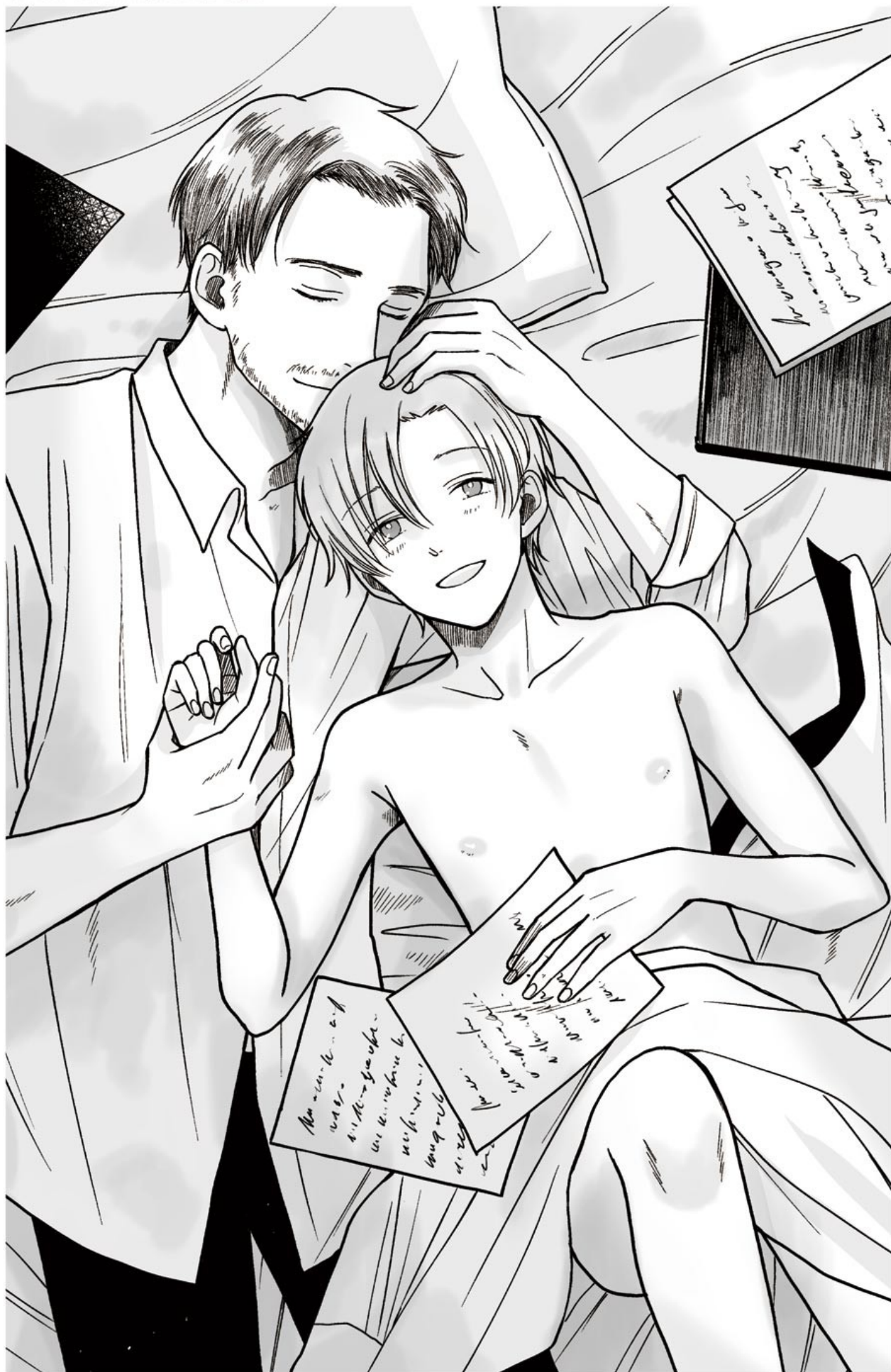
ダグラスの父は、その裁判

に証拠として、ワイルドと関係をもった青年のリストを提出しました。当時の法律では、男色は厳罰です。その上、ワイルドの男色行為を詳細に密告する手紙が、検事の元に届けられます。

この裁判は、いつしか、同性愛そのものを裁くものになっていきました。

ワイルドは同性愛を肯定し、愛に身を捧げる自分を肯定し、この愛と自分のアイデンティティが不可分であることを論じました。この演説は、後世のゲイたちに多大な影響を与えました。





その後、ワイルドは2年の投獄と重労働の末、体調を崩し、釈放後まもなくパリで息を引き取りました。享年46歳でした。

### ヴェルレーヌとランボー

フランスでも、同じような悲劇的な運命とたどったカッブルがいます。それがポール・ヴェルレーヌとアルチュール・ランボーです。

ヴェルレーヌは、裕福な家庭に育ちましたが、母親は芸術的感性が鋭かったものの、父は酒飲みで暴力的、放浪癖

のある男でした。

一方のランボーは、天才詩人として名を馳せ、パリの人々を驚かせました。ランボーはヴェルレーヌの家に居候していました。当時、ヴェルレーヌは結婚していましたが、ランボーをめぐって、妻と不仲になります。

ランボーに心酔していたヴェルレーヌは、妻と離婚し、ランボーとともに過ごすようになりました。

二人は共に旅をしていましたが、ある日、泥酔したヴェルレーヌは、あろうことかランボーに発砲。左手首を撃つ

てしまいました。さらにその翌日にもランボーに銃を向け、逮捕されてしまいます。

ヴェルレーヌはこの事件によって、1年半投獄されました。釈放度、二人は再会を果たしましたが、結局破局を迎えました。ランボーはその後、文学を捨て、アフリカを放浪するようになりました。一方のヴェルレーヌも晩年は放蕩な暮らしを送り、毎日のように暴れ散らしたといいます。

この二人の関係は、よく友情として片付けられることがあります。同性愛的な側面を指摘する声が少ないのは、当



時のフランスでもゲイは社会的に監視される対象だったからでしょう。

しかし、その一方で妻との関係が崩壊するくらいの仲なのだから、そこには友情以上の何かがあったと考える人がいるのも確かです。そうした人々が示す資料によると、ヴェルレーヌは幼少期から同性愛的な傾向を持っていたそうです。彼らに言わせると、ヴェルレーヌは、学校の友人であるリュシアン・ヴィオッティを愛していましたが、彼が死んでからというもの、失意のなかで女性との結婚を選

んだと言うのです。

しかし、この結婚生活の間、ヴェルレーヌは詩がまったく書けませんでした。彼の同性愛者説を採る人は、ゲイとしての感性が弱まり、創作意欲がしぼんでしまったのだと言います。そんなときに出会ったのがランボーでした。ランボーと出会ってから、ヴェルレーヌは再び詩が書けるようになりました。ヴェルレーヌにとって、ランボーは救いの女神でもあったのです。

さて、そのころのパリには「ボヘミア」という、モラルから解放された人々が住まう地

域コミュニティが形成されていました。ボヘミアは、フランスのゲイカルチャーの温床となったそうで、ここに暮らしていた人々は、ヴェルレーヌとランボーを「ボヘミア」の象徴として讃えたと言います。二人の悲劇的なロマンスは、当時の「ボヘミア」というコミュニティと結びつけられて、フランスにおけるゲイの歴史に名を刻むことになりました。

近代ヨーロッパを代表する二組の作家たち。その裏側には、同性愛の関係が秘められていたのです。

近現代編…… FILE ③

# ゲイが憧れた 夢の島・カプリ

## ゲイの聖地・カプリ島

日本ではレトルトパスタ  
ソースの商品名としても知ら  
れる青の洞窟。内部が真っ青  
に染まる神秘的な光景が広が  
る洞窟は、世界的な観光地で  
す。その洞窟があるのが、イ  
タリア南部のティレニア海に  
浮かぶカプリ島です。

この島はまた、ローマ皇帝  
ティベリウスが少年たちと快  
楽三昧に耽った島として知ら  
れています。それ以来、「快樂  
の島」とも呼ばれるようにな  
りました。アメリカの映画監  
督ロバート・オルドリッチは

自著『地中海の誘惑——文学・  
美術・同性愛のファンタジー』  
のなかで、「カプリ・サークル」  
という章をもうけています。  
それによると、カプリ島では、  
古くから同性愛者たちが集ま  
り、B.L.の愉悦に浸っていた  
ことが紹介されています。

以前から、カプリには錚々  
たるメンバーが訪れていま  
す。詩人のプラテンやゲー  
テ、童話作家のアンデルセン、  
哲学者のニーチェなどなど。  
そして、そのメンバーの多く  
がゲイ、あるいはゲイではな  
いかとささやかれる偉人たち  
ばかりです。

こうした偉人たちは、カプ  
リで淫蕩なひとときを過ごし  
たことでしょう。

## 美少年たちとの甘い生活

そんなカプリですが、とく  
に1890年代には「ゲイ・  
ナインティーズ」と呼ばれる  
同性愛の文化的中心地にも  
なったことがあります。

そのキツカケを生んだの  
は、1890年にドイツの画  
家クリスチャン・ヴィルヘル  
ム・アレルスが島にやってき  
て、ヴィラ・アレルスという  
建物を建てたことです。ヴィ





ラ・アレルスは、カプリ島にやってくるドイツ人旅行者のサロンのような役割を果たしました。アレルスは、ヴィラに住ませたカプリの少年

相は闇の中ですが、少年と二人きりで過ごしたのですから、そのような行為があったと考えるのは普通のことかもしれない。

し、釈放されたワイルドもダグラスに会いにやってきます。このように、1890年代のカプリ島は、同性愛を糾弾

をモデルにして絵を描きました。ヴィラの周辺の住民たちは、そんなアレルスの暮らしぶりをいぶしがり、「アレルズが少年たちをたぶらかしてゲイ行為に及んでいる」と、ウツサしいました。

また、1895年にはオスカー・ワイルド裁判の余波でゲイの疑いをかけられた3人のイギリス人がカプリ島に逃げ込みました。彼ら3人が島内でどんな行為に及んでいたかは想像に難くありません。

された、あるいは糾弾されそうになった人々にとっての駆け込み寺のような存在だったのです。  
**性に目覚めたドイツ人**

そのことが警察の耳に入ると、ナポリ警察はアレルズの逮捕を決断。アレルスは船で逃れなければなりませんでした。結局逮捕には至らず、真

そして、あのオスカー・ワイルドの恋人として有名なアルフレッド・ダグラスもカプリに入島しています。さらに、ロバート・ロスもやってきた

また、カプリ島で同性愛に目覚めた人もいます。たとえば1898年にカプリに魅了された海洋学者のフリッツ・クルップは、カプリ島で少年



愛に目覚めました。

クルップは、アドルフォ・スキアーノという18歳の若者を非常によくかわいがったとされています。彼は大金持ちだったので、カプリ島にある洞窟を購入して隠れ家にし、そこに自分の好きな友人だけこっそり入れるようにカギを渡しました。

そして、その洞窟で、カプリの少年たちを集めては、夜な夜な愛欲に溺れたと言われているといます。

クルップはカプリ島にいた4年間で、さまざまな少年たちを愛しました。彼のパー

ティーの模様が写真にも残されています。そこに映し出されているのは、裸の少年たちが戯れているシーンでした。そこには、まだ年端のいかないう少年たちも写っており、かなりセンセーショナルな話題となりました。

当時のドイツでは同性愛は厳しく取り締まられていましたが、イタリアでは罪にはなりませんでした。ただし、未成年者は別。この写真によってクルップは警察から容疑をかけられてしまいました。

このスキャンダルに過剰に反応したのは、本国に残され

ていたクルップの妻です。彼女は皇帝にまで陳情を送り、大騒動になりました。ちなみに、クルップはこの妻を精神病院に押し込んでしまうという非情っぷりも見せました。

彼のスキャンダルはドイツ国内で大きく報道され、クルップは窮地に追い込まれました。そして、スキャンダルはうやむやのまま、クルップの死によって終焉。ウワサでは自殺ともされています。

いずれにしても、19世紀のゲイたちにとって、カプリ島が楽園であったことにはまちがいありません。

近現代編…… FILE ④

# ゲイ文化に支えられた バレエ・リュス

## 伝説的なバレエ団

バレエの世界では同性愛が根強く、LGBTのダンサーも数多くいます。そんなバレエの歴史のなかで、燦然と輝く伝説のバレエ団があります。それが舞台芸術の革命とも称されたバレエ・リュスです。バレエ・リュスは、1909年から1929年まで、ヨーロッパや南北アメリカで公演活動を行いました。

バレエ・リュスの舞台には、当時の前衛芸術家たちが多数参加していました。台本を書いたコクトー、作曲家のスト

ラヴィンスキー、プロコフィエフ、画家ではピカソ、ローランサン、ルオー、マチス、衣装デザイナーにココ・シャネル、レオン・バクストらなど、錚々たるメンバーが携わり、総合芸術として結集した舞台は、芸術界に革命をもたらしました。わずか20年の活動期間でしたが、そのインパクトはすさまじく、今なお語り継がれているほどです。

## 反骨のカウンターカルチャー

そんな伝説を築いたのはロシアのセルゲイ・ディアギレ

フでした。彼はプロデューサーとして「天才を発掘する天才」と称されました。そのディアギレフは、バレエ団の人気ダンサーたちと肉体関係を結んでいたゲイセクシャルでした。そのことを最初に指摘した『太陽の子ら——1918年以降の英国のデカダンス物語』を著したマーティン・グリーンは、以下のように語っています。

——おそらく、一九一八年の英国とフランス両国のダンディたちにとって最も重要な人物——そして二十世紀のすべての文化の中でも最も重要





な人、少なくともわれわれの見解からすると——はロシア

人ディアギレフである。(中

略)ディアギレフは、西欧に、

一部、気質を変えた創造的カ

ルトをもどした。それこそ太

陽の子カルト、若者とアー

ティストのカルトであり、政

治、経済、宗教、道徳、性な

ど人間のあらゆる世界に反抗

しようとするものだ」

(海野弘著『ホモセクシャルの世界

史』より抜粋)

世界へのカウンターカル

チャーとして誕生したバレ

エ・リュスはカルトとして崇

められたのです。

そして、そこで醸成された

同性愛的な関係は、各国との

ネットワーク形成に大いに役

立ったそうです。たとえば、

フランスではゲイを公言して

いる前衛アーティストたちと

ともに、古い社会通念に対抗

するための芸術を築いていま

した。そして、同性愛的な傾

向は、アーティストだけでなく、

彼らのパトロンにも広が

りました。いわば「バレエ・

BL・コネクション」です。

こうしてバレエ・リュスは

同性愛者ネットワークの礎と

して、フランスやイギリスな

どのコミュニティを巻き込ん

で、大きなうねりとなってい

きました。

### ディアギレフの人間性

このようなムーブメントを

巻き起こした仕掛人、ディア

ギレフの人物像を見てみま

しょう。

1872年にロシアで生ま

れたディアギレフは、音楽的

素養が豊かな継母の影響で芸

術に目覚めました。そして、

同年の従兄弟、フィロソー

フォフと恋に落ちます。二人

は芸術に対する意欲が強く、

若い頃から一緒に旅をして



は、各地の芸術に触れました。

このフィロソーフォフは女性に間違われるほどの美青年だったといい、ディアギレフは彼にメロメロに恋してしまっただけです。

ディアギレフやフィロソーフォフが生まれ育ったペテルブルグには、芸術を愛好する

者たちのグループがあり、その中であって、ディアギレフは、何かを企画したり、組織をまとめる才覚を発揮していたといえます。芸術に親しみつつ、その頃からバレエ・リュスを築くための感性を磨いていたかもしれません。

ディアギレフは、雑誌『芸術世界』を創刊し、いくつか

の展覧会を開催したりもしました。

そうしてロシア音楽の祭典を開き成功させたのち、当地でバレエ・リュスを結成して、フランスに乗り込んでいったのです。

当時のロシアにおいても、ゲイは罪として罰せられましたが、その罰則はそこまで厳格に適用されたわけではなかったと考えられています。

そのためか、貴族や政治家のあいだでは公然と同性愛的な関係が築かれていたとい

ます。

のちに、ディアギレフはバレエ・リュスを代表するダンサーであったニジンスキーとも関係をもったと言われています。ニジンスキーの美しいダンスは、カルト芸術に多大な影響を与え、ヨーロッパに衝撃を与えました。

ところで、ニジンスキーはディアギレフだけでなく、彼を含む3人の男による三角関係があったことを匂わせています。

芸術の裏側に蠢くドロドロとした愛憎、それもBの世界の醍醐味かもしれません。

近現代編…… FILE ⑤

# 弾圧に屈しない ナチス時代のゲイたち

## ナチによるゲイ弾圧

これまで何度も述べてきたように、中世以降のヨーロッパ社会はゲイに対して厳しい視線を注いできました。その中でも現代において特に厳しい弾圧をしたのはナチスドイツです。ヒトラーは同性愛者への弾圧を大っぴらに行いました。まず、ゲイ擁護派が所長を務めていたベルリンの性科学研究所を襲撃。所長はドイツの市民権をはく奪され、最期の時までドイツに戻ることはできませんでした。第二次大戦中には数万人のゲイ

が強制収容所に送られ、ピンクの三角形のマークをつけられて虐待されました。ナチスは「ドイツが第一次世界大戦で負けたのはゲイのせいだ」というトンデモ理論でもって、彼らを弾圧したのです。

## 支配されぬ人々

実際には、ナチスの中にもゲイがいたこともわかっていきます。たとえば、ヒトラーの古い知人でもあったエルンスト・レームもそのひとり。しかし、彼もナチスに捕らえられ処刑されてしまいました。

この事件以降、ドイツでは同性愛禁止法が制定されました。しかし、こうしたナチスに対するカウンターカルチャーとしてベルリンでは、ゲイカルチャーが繁栄しました。当時、ゲイバーは40軒もあったそうです。ナチスが同性愛を弾圧したのは「男性国家」の建設を目指すのに、軟弱なゲイは邪魔だと考えていたからです。けれども、軟弱なはずのゲイたちは、弾圧すればするほど、地下に潜り広がっていきました。彼らの自由な愛情を抑えることはナチスにもできなかったのです。





近現代編…… FILE ⑥

# 江戸時代の日本人は男色が大好き

江戸時代はバイが基本!?

ヨーロッパでは厳しく弾圧されることも多かったゲイ文化ですが、日本では、もともと男色文化にオープンでした。寺院の稚児文化、戦国武将の衆道など、男色文化が根づいていたからです。

こうした日本の男色文化は、江戸時代になっても変わりませんでした。むしろ、ますます開放的になり、武士や僧侶ばかりでなく、庶民まで男色をたしなむようになったのです。そればかりか女性とも性を謳歌しながら、同時

に男色もするバイセクシャル化が進んでいました。こうした江戸時代の性的価値観は、ヨーロッパからは奇異の目に映ったようです。

江戸時代に来日したオランダ人のフランソワ・カロンは「僧侶ならびに貴族大身中には男色に汚れているものがあるが、彼らはこれを罪とも恥ともしない」と記し、日本で男色行為が普通に行われていることに驚きの色を隠せなかったようです。

また、オランダ人医師のケンペルは、少年の男娼が並んでいる場面に出くわしまし

た。それだけでもケンペルは驚いたそうですが、同行していた長崎奉行が、30分も男娼たちのそばに腰を下ろして眺めていたことに、さらに驚いたそうです。

このように、同じ時代にありながら、日本とヨーロッパでは、性に対してまったく異なる価値観が形成されていたのです。

広く浸透した陰間茶屋

そんな江戸時代の習俗を如実に示しているのが、「陰間茶屋」でした。「陰間」とは





男娼のことを指し、いわばゲ

イ版の風俗でした。なお関西

では「若衆茶屋」「野郎茶屋」

などと呼ばれることもありま  
した。

陰間茶屋は、もともと歌舞

伎見物に來た客が上演前後に

演者と男色行為ができる場所

でした。陰間茶屋ができた当

初のお得意様は、武士でした。

まだ経済が十分に発達してい

なかったので、一般大衆には

男娼を楽しめる余裕はありま

せんでした。ましてや、当時

はまだ低い身分と見なされて

いた町人たちが、武士が通う

場所に入るなんて、もっての

ほかでした。

しかし、次第に時代が進ん

でいくと、町人たちへの身分

差別は薄れていき、陰間茶屋

も歌舞伎から独立して運営す

る形態が増えていきました。

こうして陰間茶屋が大衆文

化として広まっていくととも

に、男色文化は広く一般的に

受け入れられるようになって

いったのです。

### 気になる待ち時間

では、具体的にどのようなに

陰間と遊ぶのでしょうか。

陰間茶屋に行くと、まず料

理茶屋などで陰間が来るのを

待ちます。そして、陰間が来

ると、料理を食べながら、陰

間が披露する芸事を鑑賞しま

す。芸事は三味線や踊りなど、

さまざまあったそうです。

芸事の披露が終わると、い

よいよお遊びの時間になりま

す。陰間茶屋は二階建てに

なっていることが多く、性交

を楽しむときは二階の個室に

通されました。ただ、個室そ

のものはそれほど広いわけ

はなく、お店によっては成人

男性は立つことさえできない

こともあったそうです。

また、ひとつの部屋を屏風



などで仕切って個室のようにしていたので、隣の情事をのぞくこともできました。

興味深いのは現代の風俗のように、しっかりと時間制がもうけられていたこと。とはいえ、正確な時計があるわけではなく、大きく分けて「仕舞」と「片仕舞」という2つに分けられていました。「仕舞」は一晩じゅう一緒にいられますが、「片仕舞」はだいたい2〜3時間でした。それでも現代の風俗店の感覚では、かなり長い時間です。そのほか、一番短いのは「ト切」で、40〜60分くらいでした。

時間を測る方法には、線香が使われました。それぞれの遊びの時間に合わせた線香を用意し、それが燃え尽きるまでの本数が時間制限とされていました。ちなみに時間を計測するのは陰間の付き人で、線香一本が燃え尽きるまでが、「ト切」でした。

### 陰間の挿入トレーニング

ヨーロッパの男色文化は、タブーであったために、実際にどんな行為をしていたのかを記録した史料がほとんど残されていません。ところが日

本では、たくさんの春画や書物に、赤裸々な記録が残されています。

そこには、陰間がどんな体位や方法で、客の相手をしていたのか克明に描写され、詳細を辿ることができます。

それらの資料の中から、陰間たちがアナルセックスを行うために肛門を拡張する方法を紹介しましょう。

陰間は、男性ですから性行為のためには肛門を性器がわりに使うことになります。いきなりペニスを肛門に挿入するのは危険ですから、ある程度慣れさせなければなりません。

ん。ペニスを受け入れるためには、ある程度トレーニングする必要があります。具体的な方法は次のようなものだったとされています。

——一日目の夜は小指に油などを塗ってお尻をいじりながら中に指を入れ、小指がお尻

に入るようになったら、一日

か二日あけて、今度は薬指を

お尻に入れ、ひたすら指を出

し入れし、また一日おいて

三度目には人差し指をお尻に

入れていく。よく入るように

なったら、その翌日には中指

にて出し入れを試し、また親

指も挿入してよく慣らし、そ

の後、人差し指と中指を合わせて、指二本を挿入して抜き差しする。そのあとにペニスを挿入し、荒々しくせず巧みに出し入れするとだんだん入っていくものである。また、お尻によっては慣れるのに早いお尻と遅いお尻がある

(安藤優一郎著『男娼と男色の歴史』

より抜粋)

また、お尻を慣れさせるた

め、指ではなく「棒薬(ぼう

ぐすり)」という道具を使用す

ることもあったそうです。約

8センチの木を綿で巻いて、

標準的なペニスの太さにした

ものでした。この「棒薬」を、

タンパンと呼ばれる潤滑油を塗って、お尻に出し入れしながら慣れさせていったのです。そのほか、本物のペニスで慣れさせることもあり、さまざまな方法を用いて、陰間の肛門は開発されたのです。

### 江戸版エログッズの数々

さて、江戸時代はセックス

に関するグッズもかなり充実

していました。そうしたグッ

ズ開発の中心地は京都の宮川

町でした。湯島天神近くの「伊

勢七」という店のものが、特

に有名だったそうです。



その代表的な商品が「通和散」です。これは現代でいうところの潤滑ローションのよくなもので、トロロアオイという植物を原料に、卵などを使って作られていました。通和散は現代のローション同様、陰間だけでなく、女性との性交でも利用されていました。ただ、通和散は粉末状だったので、そのまま使用することとはできません。まず粉末を

口に含み、唾液で溶かしてから性器に塗って使いました。

また、勃起薬もありました。それが「長命丸」と呼ばれた塗り薬です。挿入する前にペ

ニスに塗ると勃起力が持続すると謳い、オランダの秘薬として販売されました。これもペニスに塗るとぬめりが出るので、潤滑油として利用されることもあったそうです。

長命丸には副作用もあったらしく、「帆柱丸」という内服薬版の勃起薬もありました。効き目はともかく、目的としてはバイアグラのようなものだったと考えられます。

さらには、媚薬の一種さえ売られていました。江戸の上野で売られていたもので、「錦袋円」と呼ばれていました。もともとは毒消しや痛み止め

などに服用された薬でしたが、これを噛みくだいて亀頭に塗ると、より深い快感を得られたとされています。

そのほかにも「地黄丸」「西馬丹」といった服用薬もありました。これらも勃起薬や精力剤だったようで、当時から勃起力は、男の悩みだったでしょう。

これらのことからわかるように、江戸時代から日本人は性に対して飽くなき探求心を抱いていました。もちろん、Bしにおいても。興味が湧いた人は、春画をめくってみるのもいいでしょう。

近現代編…… FILE ⑦

# 歌舞伎は男娼文化の原型!?

## 若衆歌舞伎の誕生

先ほども触れたように陰間茶屋は、もともと歌舞伎の舞台とセットでした。そのため、陰間茶屋の男娼は、その多くが歌舞伎役者として修行中の少年や、役者として大成しなかった女形が兼業でおこなっていました。また、陰間茶屋での性行為も女形としての修行の一貫とされていました。つまり、歌舞伎こそが男娼文化の原型だったのです。

歌舞伎は、安土桃山時代に出雲阿国という女性が創出し、当初は女性たちが踊る「女

歌舞伎」が行われていました。

歌舞伎はすぐに全国で人気を博し、類似の劇団が一気に増えました。ところが、ライバルと競合した結果、芸事だけでは食べていけない劇団も出てきます。そのような劇団は芸だけではなく「色」を売るようになっていきました。

性的なサービスが激化し、女歌舞伎による風紀の乱れを懸念した幕府は、法律でこれを禁止してしまいます。

そこで、女歌舞伎の代替として、少年たちを女装させて舞う「若衆歌舞伎」が大流行したのです。

## 禁止されても消えない男娼

女歌舞伎が若衆歌舞伎に変わっても「色」を売ることは続きました。

若衆歌舞伎には、舞台に立つ役者である「本子」と、舞台に立たない役者である「色子」の2種がいましたが、どちらも売春を行いました。「若衆」は、もともと元服前の少年全般を指す言葉でしたが、若衆歌舞伎の流行によって、性売る少年の呼び名にもなりました。

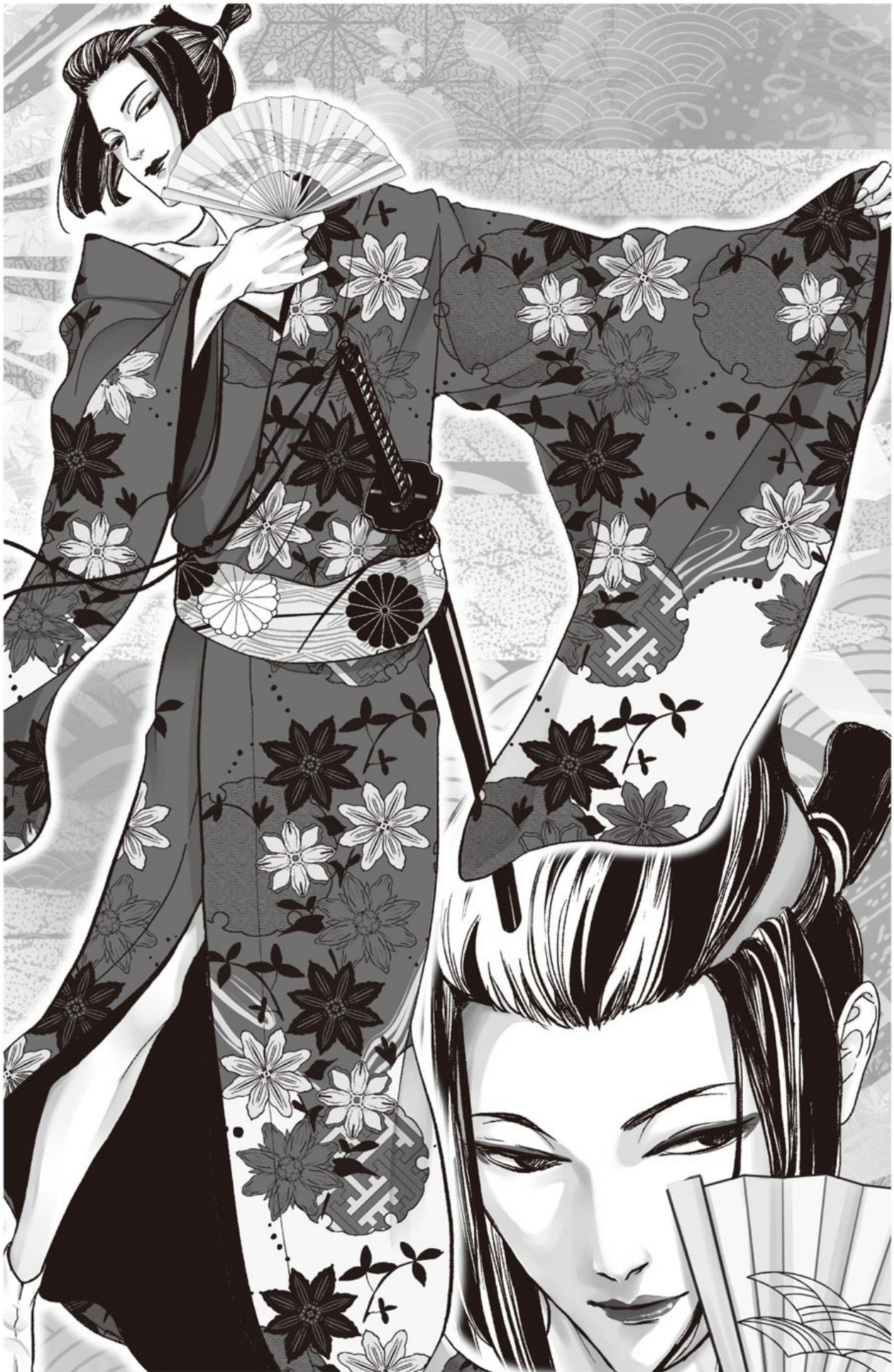
若衆歌舞伎は熱狂を巻き起



illustration by 水田ゆき

第二章

近現代編





こし、その中から絶大な人気を誇る役者を生み出しました。今でいうアイドルの「推しメン」のようなものです。「推し」がほかの男性と一夜をともにしたら、ファンが激怒するのは今と変わりません。

そして、ついにファンによる刃傷沙汰まで起きてしまいます。これによって幕府は若衆歌舞伎を全面的に禁止。以後、若衆歌舞伎はその命脈が途絶えました。

### 重要だった前髪の有無

幕府の禁令によって、若衆

歌舞伎は表舞台から姿を消しました。しかし、なかには小屋を建てていた興行主もいたので、興行を禁止されたら小屋は立ち行かなくなります。

興行主たちは、幕府に陳情して、何とか「物真似狂言尽くし」という名のもとに歌舞伎の再興を許されました。けれども幕府は、少年役者を舞台にあげることだけは許しませんでした。

役者たちは元服前の少年の象徴だった「前髪」を剃り落として舞台に立つしかありません。こうして若衆歌舞伎は大人の男だけが演じることを

前提とした「野郎歌舞伎」へと変ったのです。

もちろん、前髪を剃っても少年であることに変わりはありません。男娼の需要はなくなることはありませんでした。ただ、役者たち自身は前髪がないことを気にしていたようで、前髪を剃ったことを隠すために、頭に錦をつけたり頭巾をかぶったりしました。前髪を剃った部分に色染めの手ぬぐいを置いたり、付け髪をつけて舞台に立った者もいたようです。

前髪を剃ったことで、意外な影響もありました。前髪が



禁止される以前は、男娼として活動できるのは、元服前の少年だけでした。しかし、少年と成人が同じ髪型になったことで、少年と成人の境がいまいになり、成人の男娼が登場するムードがつくられていったのです。

### 美意識の高かった陰間

江戸時代の男娼を陰間というのは、女形の歌舞伎役者の中で、舞台に立たずに陰の間にいる者というのが、語源だと言われています。

陰間には、女装した男娼の

イメージがありますが、誰もが女装をしていた訳ではありませんでした。女形とはいえ、むしろ男性の姿で売春するのが一般的で、女装姿の男娼は、ごく一部だったのです。

とはいえ、女形をするような美少年たち。中性的な美貌の持ち主だったことは想像できます。彼らは、美意識が高

く、ザクロの皮から作った特製の粉で全身を磨いて肌のケアをしたり、平安時代の稚児がしたように寝るときに板で鼻をつまんで高い鼻をつくろうとしたりと、美に対する努力を惜しみませんでした。

ちなみに、同じ陰間でも、客の間では、江戸出身の陰間より、上方（関西）出身の陰間のほうが高い評価を受けました。言葉や気性が荒い江戸の陰間に比べ、上方出身の陰間は所作が柔らかく美しいとされ、「下り」「下り子」と呼ばれて珍重されたのです。

舞台の上の美形役者に触れてみたい、抱いてみたいと思う客と、そんな客に気に入られるために美貌を磨く陰間。

江戸時代のことなのに、パパ活をするグラドルにも通じる、普遍的な欲望の姿なのかもしれません。

コラム③

# トゥー・スピリット

近年、セクシャルマイノリティを表す「LGBT」という用語がよく用いられます。ご存知かもしれませんが、それぞれ「L」＝Lesbian（レズビアン、女性同性愛者）「G」＝Gay（ゲイ、男性同性愛者）「B」＝Bisexual（バイセクシュアル、両性愛者）「T」＝Transgender（トランスジェンダー、割り当てられた性別とは異なる性別に帰属する者）の頭文字をまとめて総称した用語です。

このなかで、一般的にわかりにくいのが、トランスジェンダーです。いわゆるニューハーフのように見た目を変えてしまう人もいれば、外見をほとんど変えない人もいますし、性的な欲望を伴わない場合もあります。トランスジェンダーはごく最近の概念として考えられがちですが、こうした人たちは、実際に

は古くから存在しました。

その一例が「トゥースピリット（Two Spirit）」と呼ばれる人々です。アメリカ大陸の北から南におよぶ広範囲で、部族ごとに多様な文化を形成したネイティブ・アメリカンがいましたが、そのなかに男女どちらのカテゴリにも属さない人々がいたのです。現代になり、これらの人々を総称する用語としてトゥースピリットと呼ぶようになりました。

トゥースピリットは、異性装をしたり、部族内で異性の役割を担ったりする人々を主に指しますが、部族の文化によっては性別による社会の役割のない場合もあり、定義も定まっていません。我々が考えているような性のカテゴリにも定まらないとされており、今なお研究が進められています。





## 番外編

ホモセクシュアリティに関連した猟奇的な事件

# 猟奇事件編

# ウィリアム・G・ボニン

この章では、おもに同性愛の絡んだ猟奇事件について述べていきますが、最初に理解しておいてほしいのが、ここに登場する凶悪犯たちは、同性愛者であることが原因で、殺人を犯したわけではないということ。当たり前のことですが、猟奇的な性格はあくまで個人の資質とそれまでの体験の結果であることを確認しておきます。

## フリーウェイキラー

悪名高いシリアルキラー  
ウィリアム・ショージ・ボニ

ン。「フリーウェイキラー」という異名は、犠牲者の遺体の大部分が南カリフォルニアの高速道路に沿って発見されたことに由来しています。

ボニンは、1979年から80年にかけて14名のティーンエイジャーの男の子たちを強姦して殺害した連続殺人鬼です。14人は、分かっている数だけで、実際の被害者は40人にのぼると言われています。

実は、ボニンは連続殺人を犯す前に一度警察に捕まっています。1974年、ボニンは、14歳の少年がパーティーからの帰りにヒッチハイク

をしていたところを発見します。

その際、ボニンは少年を銃で脅して、彼を強姦しました。このときはまだ、命までは奪いませんでした。そのときボニンは次のように話したときれています。

「いつもは殺すんだ。だけど、お前はパーティーで一緒だったところを誰かに見られているかもしれない。だから、今回だけは助けてやる」

被害に遭った少年はすぐ警察に通報しました。このとき、ボニンは15年の不定期刑に処され、1978年に釈放







されました。その後、ボニンは次々と男の子を相手に強姦殺人を犯していきます。

### 虐待に次ぐ虐待

ボニンは、1947年に、アメリカ合衆国のコネティカット州で生まれました。

アルコール依存症の父親と有罪判決を受けた児童虐待者である祖父という家族に育ち、家庭は機能不全に陥っており、ボニン自身も暴力に育児放棄という虐待を受けていました。

1953年にはボニンの母

親は父親の身体的虐待から子供を守るために息子を孤児院に入れましたが、この孤児院も異常な環境で、決まりを破った子どもに対して、危険なほど殴ったり、様々なストレス状態に耐えさせる、水で満たしたシンクに沈めるなどの虐待が日常的に行われていました。

こうした過去の虐待体験はボニンの人格形成に深刻な影響を与えたと考えられます。ボニンは、のちに「虐待者の男性が最初に（ボニンの）手を背中に縛った場合にのみ、性的虐待に同意した」ことを

明かしており、一種の強姦体験を植えつけられていたとも考えられます。

さらに、10代の頃はさまざまな軽犯罪を何度も起こしたことで、少年拘置所への出入りを繰り返しています。そして、そこでも大人の男性から性的な虐待を受けたのです。

ボニンの幼少期には、「大人が子どもを犯す」ということが日常的に起きており、その被害者となることで、彼自身が大人になったとき、今度は強姦者となったのではないかと指摘されています。彼の心には愛情の発現としての少



年愛ではなく、虐待としての同性セックスしか存在していなかったのでしょうか。

### 残酷な殺害方法

ボニンは10件の殺人と強盗で死刑を宣告され、1996年に執行されました。

ボニンの犯行で特徴的なのは、共犯者がいたことです。彼には、少なくとも4人の協力者がいましたが、それぞれが連携して組織化されているわけではなく、場当たり的な共犯者でした。その一例を挙げれば、22歳のヴァーノン・

バッツは少なくとも8件の殺人への関与を認めました。しかし、主犯はあくまでボニンで、自分は催眠術で操られていたと主張しましたが認められず、結局は有罪となって、裁判中に自殺をしました。

裁判のなかで共犯者のバッツは犯行の内容を詳細に証言しています。

ボニンは捕らえた少年の首までTシャツを上げると、そこに鉄パイプを差し込んで両手でパイプを回してギリギリとTシャツを絞りました。バッツは少年が暴れないよう体を押さえ込むと、たちまち

Tシャツは少年の首に食い込んだと言います。

苦悶の表情を浮かべる少年に対し、ボニンは声をあげて笑っていました。そして、死にそうになると、Tシャツを緩め、またTシャツを絞るという行為を反復。ボニンはゆっくりと時間をかけて少年を殺害し、その遺体をフリーウェイの路肩に投げ捨て、その場を去りました。

ボニンの犯行は、自身がされた虐待の景色をそこに再現しようとするかのようです。彼が見ていたものは、幼き日の自分の姿だったのかもしれない

# ジェフリー・ダーマー

ミルウォーキーの殺人鬼と呼ばれ、全米中を恐怖に陥れた猟奇殺人鬼、ジェフリー・

ダーマー。彼は、1978年から1991年にかけて17人の青少年を殺害。被害者に黒人やアジア人が含まれていたことから、その背景に人種差別があったとも指摘されています。

彼の異常性は絞殺後に、屍姦や死体切断、食人を行ったことに現れています。まさに残虐行為のデパートです。

ジェフリーのサディズムや性指向が同性に向かっていることは明白でした。彼は自ら

犯した多くの殺人で、生死を問わず、肛門性交に興じていたからです。

## 殺人への目覚め

ジェフリーの最初の殺人は、高校卒業をして間もなくのことでした。被害者は、ロックコンサート帰りのヒッチハイカーで、19歳のステイブン・ヒックスという少年です。音楽の趣味が合い、ジェフリー好みのルックスだったことから、酒とマリファナで自宅へ誘いました。この時、ジェフリーは、人生で初めて

人と打ち解けることの喜びを味わいましたが、ヒックスが父親の誕生日祝いのために帰宅すると言い出したので、彼を帰したくない一心で、手近にあったダンベルで背後から殴り、気を失ったところを絞殺。そのまま彼を屍姦しました。その後、ジェフリーはナイフでヒックスの腹部を切り裂き、その内臓を床に広げ、その上を転がって射精しました。その後、死体を床下へ運び込み、バラバラに解体。しばらくは手元においていましたが、腐敗したため、首以外の部分はゴミ袋に詰めて





近くの森に埋めました。

ジェフリーは、この殺人をトラウマだと語っており、もっとも思い出したくない殺人だった言っています。そのくせ、屍姦をしたり、内臓の上で射精をしたりと、この世のものとは思えないほどの猟奇的な行為に及んでいました。いったい、どうして彼はこんな残虐的な行為を、突発的にできたのでしょうか。

### 異常な幼少期

ジェフリーの心の闇は、彼の父親ライオネルが記した手

記から、その一端を伺い知ることができます。

ジェフリーが4歳のときのこと。家の床下でジャコウネコに食べられた小動物の骨の山が見つかりました。ジェフリーはそのひとつをつかむと、熱心に見つめ、そして、地面に叩き落とし、砕ける音を聞いてうつとりしていたそうです。

ライオネルはまた、以下のよう記しています。

「4歳のとき、あの子は自分のおへそを指さして、もし誰かがここを切り取られたら、どうなるのと聞いたことがあつ

た。あれは、自分の体に興味を持ちはじめた子供の無邪気な質問にすぎないのだろうか？ それとも、心の中にすでに病的ななにかがひそんでいた兆候だったのだろうか？ 釣りに行くと、彼ははらわたを抜かれた魚にすっかり魅せられたように見え、明るい色をした臓物を見つめて、目を輝かせていた。あれは単なる好奇心だったのか？」

つまり、ジェフリーは4歳のとき、すでに何らかの危険な兆候を示していたのです。その兆候は、両親が離婚し、孤独な思春期を過ごすうちに



さらに悪化していったのではないでしょう。そして、ジェフリーは酒浸りの毎日のなかで、だんだんと自分でも気づいていなかった心の裡の悪魔に蝕まれてしまったのです。

### 動かぬものへの憧憬

ジェフリーがゲイであることが露見したのは、母の家で過ごしていたある日のことでした。祖母のキャサリンがジェフリーの部屋に置いてある男のマネキン人形に気づいたのです。何に使ったのか。それはオナニー以外ではあり

えません。

このマネキン騒動の直後、ジェフリーは、近所の少年が自動車事故で死亡したことを知ると、その墓を暴きに行ったことがありました。死体をマネキンの代わりにしようとしたのです。その後、ジェフリーはゲイバーに入り浸るようになります。そこで、欲望を満たす相手を手に入れるために彼が思いついたのは睡眠薬で眠らせることでした。意識が朦朧とした相手を個室に連れ込むのは、思ったよりもたやすく、モテないジェフリーでもすぐにセックスに持

ち込めることに気づいてしまったのです。

こうしてジェフリーの行為はどんどんエスカレートしていき、最初の殺人に至りました。そして、その後は次々と相手を殺害していきました。

あくまで推測ですが、これまでの話の中で、ジェフリーが動かないものに執着していることに気づきませんか？

彼の性的な興味は動かない（＝死んでいる）ものに向いていたようにも思われます。そこには彼自身の生へのあきらめと、死への憧れを感じずにはいられません。

# ラリー・アイラー

## ゆがんだサディズム

純然たる強姦目的で、男性ばかりを殺害していた殺人鬼が、ラリー・アイラーです。

1952年にインディアナ州に生まれたラリーは、離婚を繰り返す母親の再婚について行った先々で義父から虐待を受けていました。

ラリーは就職しても長続きせず、職を転々とする毎日。何かいやなことがあると、すぐに職を変えてしまいました。そんなラリーが初めて、警察沙汰を起こしたのは1974年のことでした。

ヒッチハイクしていた青年に手錠をかけ、刃物で切りかかったのです。こうした行為は彼の極度のサディズムから生じたものでした。その後、彼は連続殺人へと突き進んでいきます。

## 身勝手な連続殺人

ラリーの犯行は一貫性がなく短絡的でした。あるときは絞殺し、またあるときは刃物でめった刺しにしました。共通していたのは、相手を犯したことです。彼はセックスゲームと称して、相手を縛り上げ、

抵抗できなくなったところで犯行に及んでいました。犠牲者の数はなんと23人。ただし、これはラリーが自供した人数にすぎず、もしかしたらもっと多くの人の命が奪われていたかもしれません。いずれにしても、ラリーのサディズムは常軌を逸したものでした。

ラリーの事件は、ゲイ殺人とも称されましたが、彼にとってゲイであることはそれほど重要ではなかったように思います。ラリーは司法取引により、死刑を免れましたが、服役中にエイズを発症して、この世を去りました。



# ロバート・バーデラ

## 限界を超えたサディズム

一般的にSMというのは、サディストとマゾヒストの信頼関係の上に成立するプレイです。サディストはマゾヒストが望む苦しみを与えることはあっても、殺してしまうようなことはありません。

その境界線をいともたやすく飛び越えたサディストが、ロバート・バーデラでした。

ロバートは自らBDSMグッズを扱う店を経営しており、性嗜好は生粋のゲイでした。彼は1984年から1987年にかけて6人もの

男性を監禁。拷問にかけて殺

した挙句、最期はバラバラにしてゴミと一緒に捨ててしまっていました。その拷問は苛烈を極め、強姦したあとにこん棒で殴り続け、電気をショックを与えたのちに薬を注射して、自らのオモチャにすることを好みました。犠牲者の肛門にはありとあらゆるものを突き刺し、相手を苦しませ抜いたのです。

## 魔力を宿した道具

ロバートはもともと寡黙で内向的な少年だったといわれ

ています。父親を早くに亡くしたロバートは、カトリックを熱心に信仰しましたが、祈りが何の意味も持たないと悟ると、彼は悪魔崇拜へと傾倒していきました。高校卒業後は、美術学校に進学し、独特で奇妙なセンスを発揮していたそうです。

一見すると大人しそうに見えたロバートですが、彼の悪魔崇拜は極度に高まっており、自身の造る道具には魔力が備わっていると思い込んでいました。彼は自身の魔力を行使して、拷問の限りを尽くしたのです。

SANWAMOOK

リアルBLシリーズ

# 腐の歴史を集めてまいりました。 お納めください

2021年2月1日発行

R-BL 研究会・編著

テキスト ■ 鈴木享治

表紙イラスト ■ ハナ

解説イラスト ■ 夏目かつら／青井さび

波野ココロ／水田ゆき

加賀城ヒロキ／はぜはら西

鯨／アキハルノビタ

装丁 ■ 俵製作所

発行 ■ 三和出版株式会社

〒170-8468

東京都豊島区巣鴨 4-26-10

編集部 ■ 03-5907-7015

営業部 ■ 03-5907-7011

発行人 ■ 小野寺一

編集人 ■ 平林幹雄

印刷 ■ 三共グラフィック株式会社





ずっと昔から、世界中で、オトコはオトコを愛してた…

歴史の裏側に隠された、  
オトコとオトコの“エロスと残酷”実話集!!



伊達政宗のラブレター



ダ・ビンチの美形モデル



カエサルとニコメデス王



劉邦と宦官



エジプト神話の近親相姦BL



若衆歌舞伎



同性愛結社



僧の性玩具・稚児



同性愛者だけの軍団

# 腐の歴史を 集めてまいりました。 お納めください

SANWA MOOK